

## 情報科学技術協会会員アンケート調査報告（詳細報告版）

～ 魅力ある協会活動に向けて～

この報告書は会誌：情報の科学と技術 Vol.53 No.10（2003.10）に掲載した報告書の詳細版として作成したものです。

この報告は、アンケート中の自由記述の質問事項に対して、会誌では紙面の関係上掲載できなかったアンケート回答者の意見を極力掲載することを心がけた。しかし、編集に当たっては、以下の対応を行った。

- ・ Q39 の “ 何でも結構ですからご自由にご記入下さい ” 以外の設問で、長文の記述の場合には、内容ごとに分割し、それぞれを一文とした。
- ・ 個人名、あるいは個人名が想定できそうな記述については、表現方法を変更した。
- ・ 時候の挨拶、謝辞、美辞麗句、悪口雑言については割愛した。
- ・ 質問によっては、回答内容が重複する場合それらを類型化し、その回答総数を記述した。
- ・ 類型化が困難な場合、あるいは多分野にわたる場合は “ その他 ” の項にした。

平成16年3月31日

社団法人情報科学技術協会  
アンケート実施委員会

### < アンケート実施委員会 >

平井邦造\*<sup>1</sup>、伊藤淳\*<sup>2</sup>、相良久次郎\*<sup>3</sup>、田村紀光\*<sup>4</sup>、  
原田智子\*<sup>5</sup>、三浦敬子\*<sup>6</sup>事務局 西垣幸雄\*<sup>7</sup>

2003年2月に実施したアンケート調査は、情報科学技術協会（以下、INFOSTA）会員（維持会員、普通会员、準会員）の実態を調べ、更に会員の要望を忌憚なく聞くことで、今後のINFOSTAの活動に生かすことを目的としたものである。会員の現状を知るために、性別・年齢層の調査や現在の職業に加え、他の関連の学・協会への重複加入状況や準会員（学生会員）の構成を調べた。設問は、初めに著作権問題、複写権問題対策、OUG、SIG、等への興味について尋ねた。つぎに、事業化を指向している“会誌編集 - 機関誌「情報の科学と技術」”、“出版”、“研修(シンポジウムを含む)”、そして“資格認定試験”については、個別の詳細な設問により調査し、結果を報告した。

キーワード：情報科学技術協会、INFOSTA、アンケート調査、著作権問題、複写権問題、OUG、SIG、  
会誌編集、情報の科学と技術出版、研修、シンポジウム、資格認定試験

- |                           |   |
|---------------------------|---|
| * <sup>1</sup> ひらい くにぞう   | (株)ジー・サーチ<br>〒108-0022 東京都港区海岸 3-9-15 Tel. 03-3452-1244 |
| * <sup>2</sup> itou あつし   | 順天堂大学図書館  |
| * <sup>3</sup> さがら きゅうじろう | 富士通テクノリサーチ(株)   |
| * <sup>4</sup> たむら としみつ   | (株)日鉄技術情報センター   |
| * <sup>5</sup> はらだ ともこ    | 産能短期大学  |
| * <sup>6</sup> みうら けいこ    | 産能短期大学  |
| * <sup>7</sup> にしがき ゆきお   | (社)情報科学技術協会   |

A Report on the questionnaire to the members concerning to the activities of the INFOSTA. By INFOSTA Questionnaire WG.

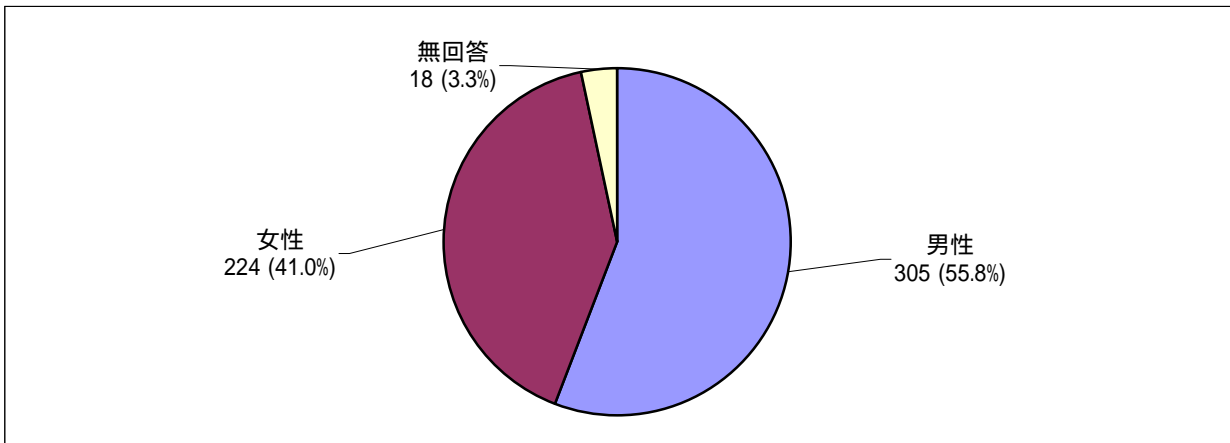
**Abstract** : The questionnaire proceeded in February 2003 by the Information Science and Technology Association of Japan (INFOSTA) aimed to grasp the facts of members (Support Member, General Member and Student Member), and some requirements to the Association are asked, too. Characters of the members, their sex, age, job/student, state of duplicate engagement for the other societies and associations were in the questionnaire. The questionnaire was composed by questions for interest in activities of the committees and working group such as copyright issues, issues on copyright Clearance for Reproduction, Online Database Users Group (OUG), and Special Interest Groups (SIGs) for studies on their particular topics. It prepared their each individual question for publishing activities of books and Journal of Information Science and Technology Association, seminars and symposiums, and qualifying examination which are encouraging their profitability as the business units.

**Keywords** : Information Science and Technology Association of Japan / INFOSTA / Questionnaire / Copyright / Copyright Clearance for Reproduction / OUG / SIG / Journal Publishing / Journal of Information Science and Technology Association / seminars / symposiums / qualifying examination

## Q2 . INFOSTAの会員像

INFOSTAの会員の男女構成比と年齢構成について質問をした(Q2)。1990年に実施したアンケート調査(1987年までの普通会员710名に対し実施し412名の回答があった。)の結果とは、調査対象が異なるので単純には比較する事はできないが、会員の構成要素としては大きくは違いが無いであろうという前提で比較してみると次の様になった。

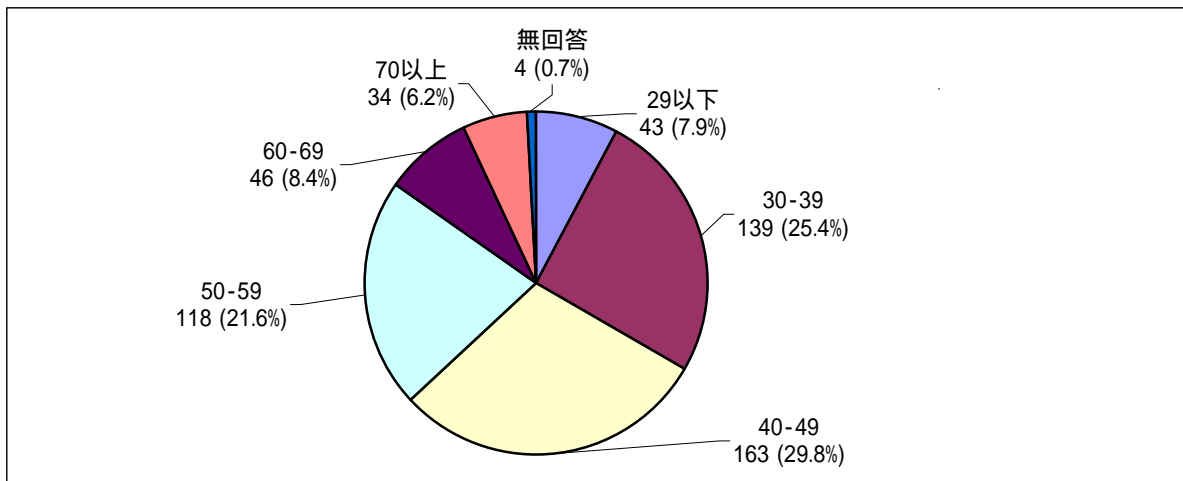
	2003 年調査	1990 年調査
男性	305 (55.8%)	330 (80.1%)
女性	224 (41.0%)	78 (18.9%)
無回答	18 (3.3%)	4 (1%)
計	547	412



年齢	2003 年調査	1990 年調査
29 歳以下	43 (7.9%)	32 (7.8%)
30 歳 - 39 歳	139 (25.4%)	67 (16.3%)
40 歳 - 49 歳	163 (29.8%)	123 (29.9%)
50 歳 - 59 歳	118 (21.6%)	114 (27.7%)
60 歳 - 69 歳	46 (8.4%)	58 (14.1%)
70 歳以上	34 (6.2%)	13 (3.2%)
無回答	4 (0.7%)	5 (1.2%)
回答数	547	412

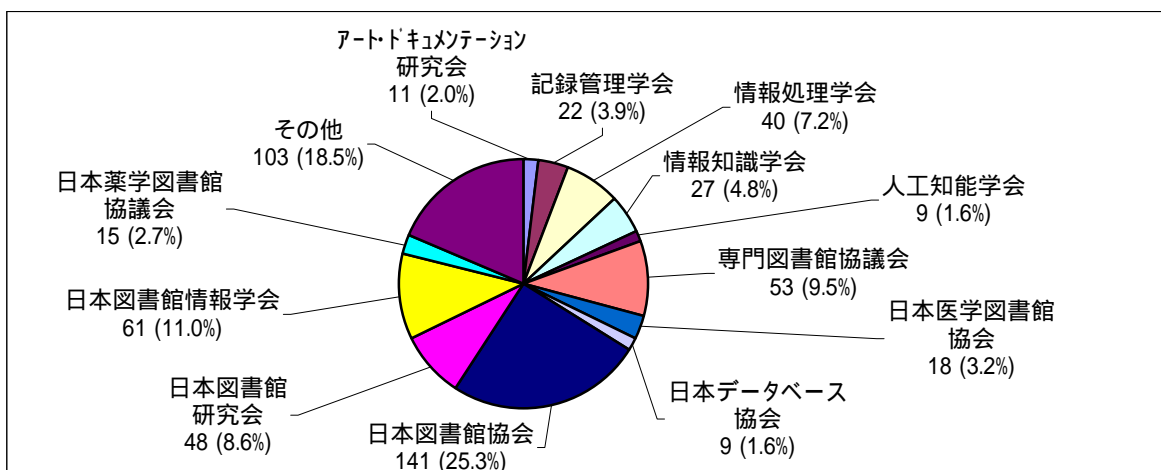
会員男女の構成は、この 15 年間に大きく女性会員が増え、男性会員が減少した。平均年齢は、約 1.5 歳若返っている。また、性別の問いかけに対し、無回答の割合が増えているのは、“このアンケートで、性差を問う必要は無い。”という批判を意味しているものと思われる。

INFOSTA の歴史 52 年目を迎える中で、この対比をどのように読むのかは難しいが、15 年前と 40 歳 - 49 歳の構成比が前回と同じ約 30% であることに着目をする、30 歳 - 39 歳の層が約 9% 増加し、60 歳 - 69 歳の層が 5.7% 減少している、一方 70 歳以上の会員の割合が 3% 増えている。



Q3. 関連する、他の学会・協会に加入されておりますかお尋ねします。該当する番号に 印をしてください。回答は複数選択しても構いません。(50音順)

会員の“関連する、他の学会・協会への加入”状況(Q3)を尋ねたところ、延べ回答数で557の回答があり、INFOSTAの会員は、平均でもう1つ別の学協会にも加入していることになる。また、回収数547名における割合では、「日本図書館協会」が141名(25.3%)、「日本図書館情報学会」が61名(11.0%)、「専門図書館協議会」が53名(9.5%)、「日本図書館研究会」が48名(8.6%)の順で、図書館・情報関連の学協会に加入している人の割合が多いことがわかる。“図書館”という文字のつかない学協会では、「情報処理学会」が40名(7.2%)、「情報知識学会」が27名(4.8%)と続いた。

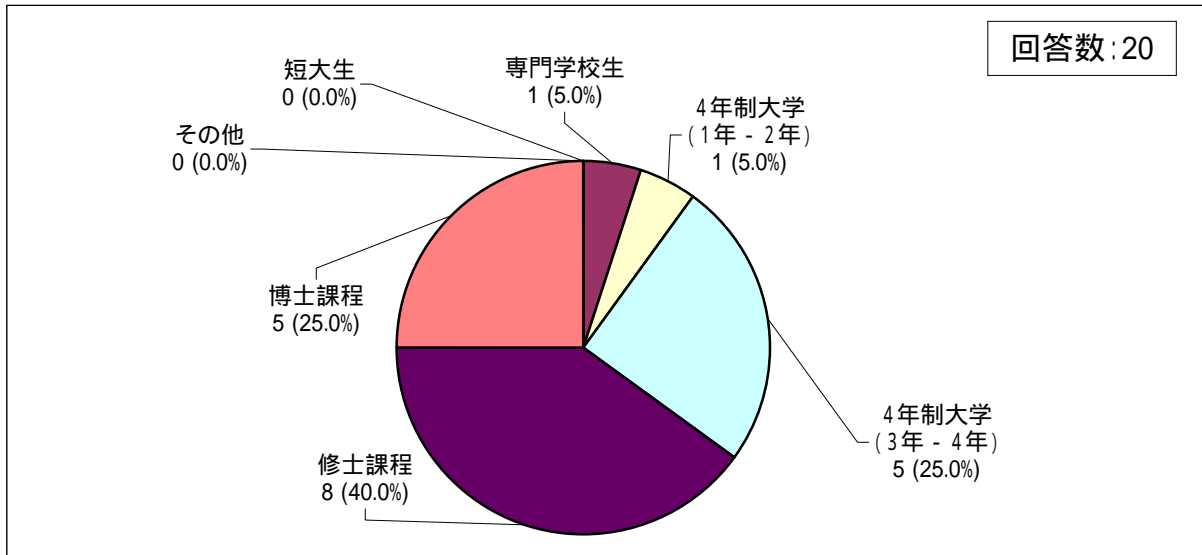


<その他> 主だった学・協会

日本化学会、三田図書館・情報学会、大学図書館問題研究会、電子情報通信学会、情報メディア学会、神奈川県資料研究会、経営情報学会、日本薬学会、日本農学図書館協議会、

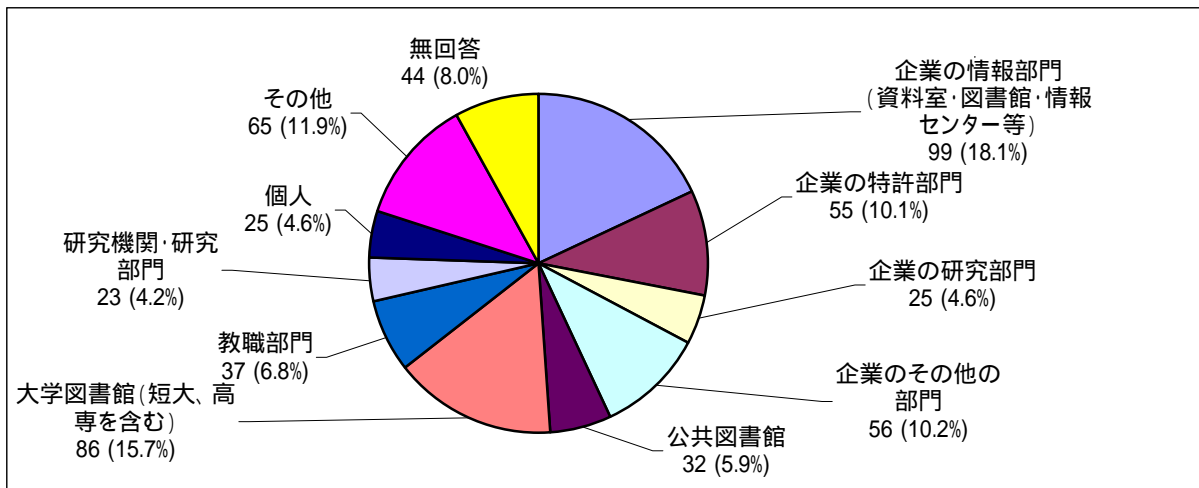
Q4. 準会員(学生)の方にお尋ねします。該当する番号に 印を一つ選択して下さい。なお、設問Q5以降の項目はお答えいただける範囲でお答え下さい。

“準会員(学生会員)に対する調査”(Q4)は、回答母集団が20回答数で小さいという難点があるが、修士課程(博士過程前期)が8名(40.0%)、大学3年-4年生が5名(25.0%)、博士過程(後期)が5名(25.0%)であった。



Q5. 勤務先の所属部門をお尋ねします。該当する番号に 印を一つ選択して下さい。

“勤務先での所属に関するアンケート”(Q5)では、回答数547で、「企業の情報部門(資料室・図書館・情報センター)」99名(18.1%)、「大学図書館(短大・高専を含む)」86名(15.7%)、「企業のその他の部門(企業の特許部門および企業の研究部門、以外の意味)」56名(10.2%)、「企業の特許部門」55名(10.1%)、「教職部門」37名(6.8%)と続き、あとは、「公共図書館」、「研究機関・研究部門」となる。そして“企業に勤務”されている方の合計は235名(43.0%)で、“公共図書館・大学図書館”に勤務されている方の合計は118名(21.6%)であった。“研究機関・研究部門・教職部門”の合計が60名(11.0%)、「個人」が25名(4.6%)で、「その他」および「無回答」が110名(19.9%)であり、企業に勤務されている方が半数近くを占めるが、職種という意味では多方面の方々が会員となっていることがわかる。

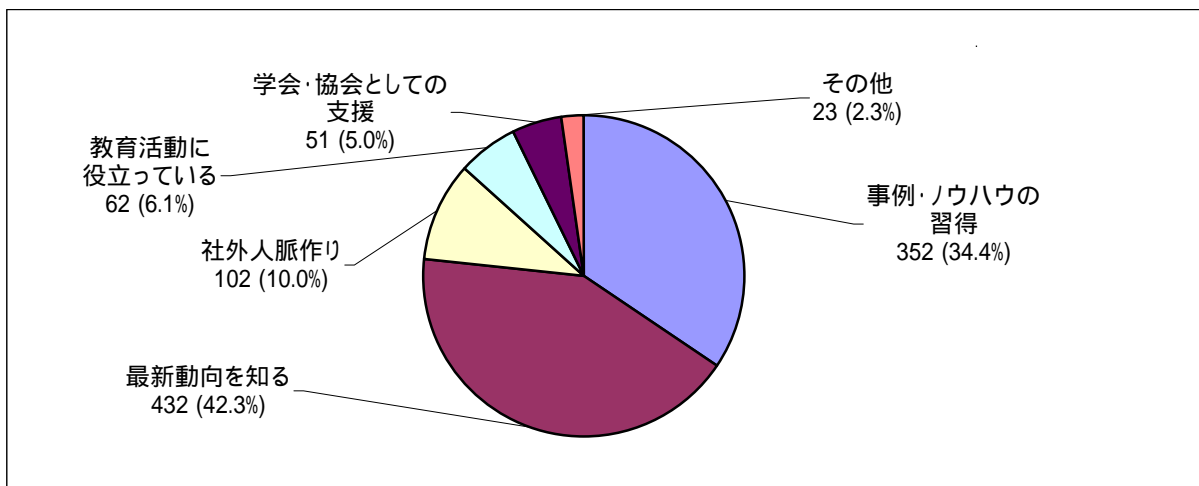


<その他>主だった所属

国立の情報機関、国の調査部門、団体の情報部門、特許・弁理士事務所(2)、大学職員、学校法人、特殊法人のその他の部門、学校法人、専門図書館、調査会社、知的所有権センター、情報サービス業

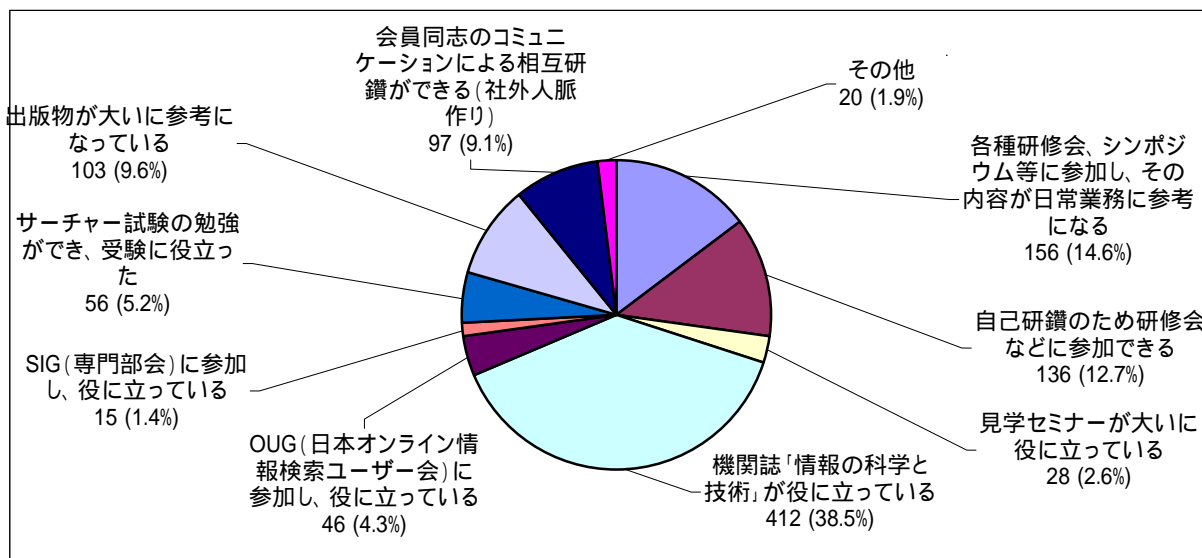
Q6. 協会に加入している理由をお尋ねします。該当する番号に 印をして下さい。回答は複数選択しても構いません。

“協会に加入している理由”(Q6)を尋ねると、延べ回答数1,022で、「最新動向を知る」432名(42.3%)、「事例・ノウハウを知る」352名(34.4%)、「社外人脈作り」102名(10.0%)、次いで「教育活動に役立っている」62名(6.1%)となる。加入の理由は「最新動向を知る」と「事例・ノウハウの習得」に大きく比重が寄っている



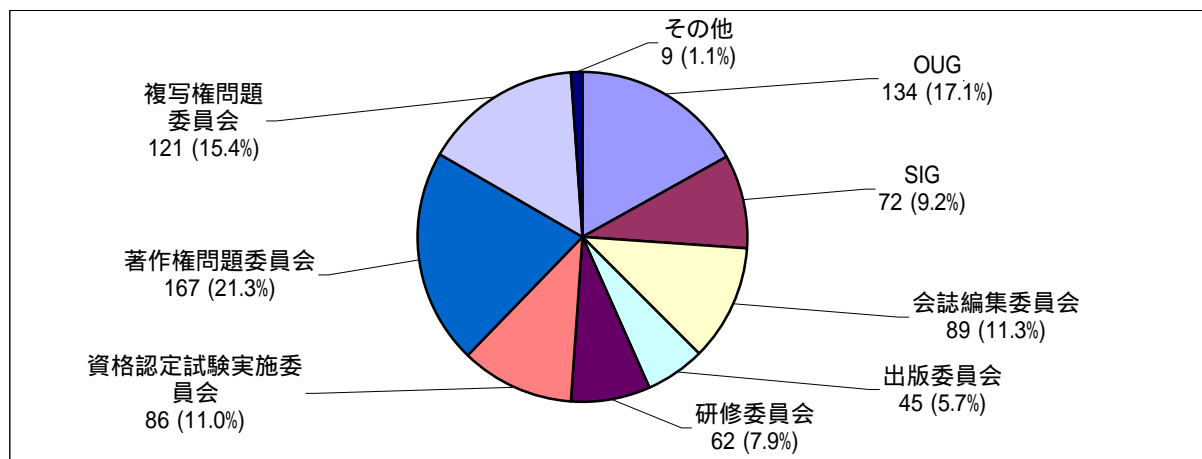
Q7. 協会に加入していることで、会員としてメリットと感じたことは何ですかお尋ねします。該当する番号に 印をして下さい。回答は複数選択しても構いません。

“協会に加入していることのメリット”(Q7)としては、延べ回答数 1,069 のうち、「機関誌「情報の科学と技術」が役に立っている」412 名(38.5%)、「各種研修会・シンポジウム等に参加し、その内容が日常業務に参考になる」156 名(14.6%)、「自己研鑽のため研修会などに参加できる」136 名(12.7%)、「出版物が大いに参考になっている」103 名(9.6%)、「会員同志のコミュニケーションによる相互研鑽ができる(社外人脈作り)」97 名(9.1%)の順序になり、機関誌に対するメリットが大きく取り上げられている。



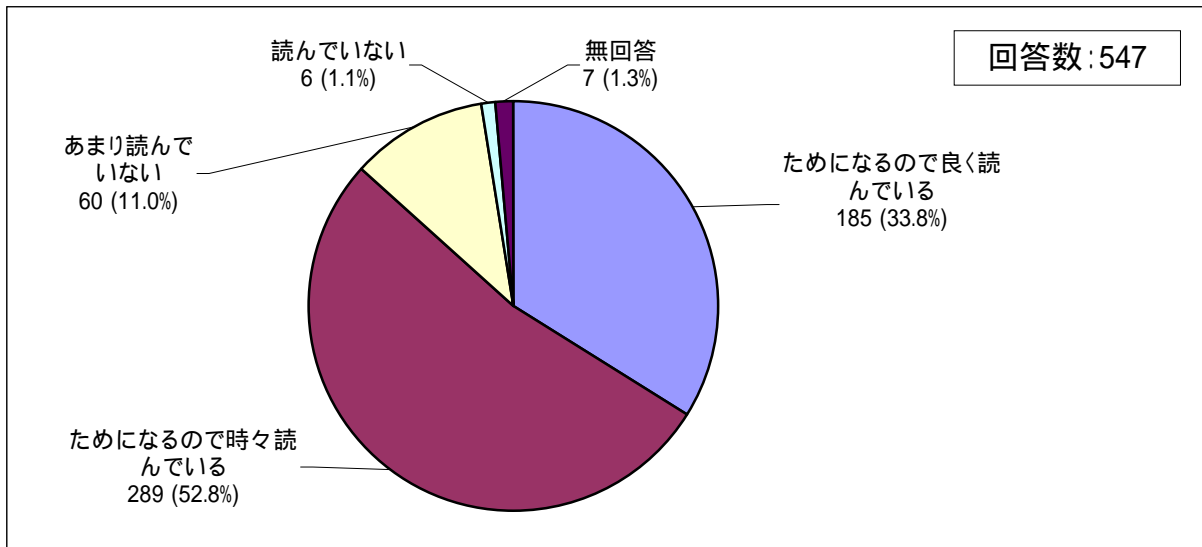
Q8. 協会の活動についてお尋ねいたします。協会として取り組んでいる以下の活動の内、興味のある番号に 印をして下さい。

“協会の取り組みの中で興味のあるもの”(Q8)について尋ねると、延べ回答数 785 で、「著作権問題委員会」に回答があったのは 167 名(21.3%)、「OUG=日本オンライン情報検索ユーザー会」134 名(17.1%)、「複写権問題委員会」121 名(15.4%)、「会誌(機関誌)編集委員会」89 名(11.3%)、「資格認定試験実施委員会」86 名(11.0%)、「SIG=専門部会」72 名(9.2%)、「研修委員会」62 名(7.9%)、「出版委員会」45 名(5.7%)と続く。会員にとって、“会誌の編集”については、“メリットがあるもの”と、“興味のある取り組み”に順位の差異が大きく表われている。会誌編集作業の大変さを意味するのであろうか。



会誌についてお尋ねします。

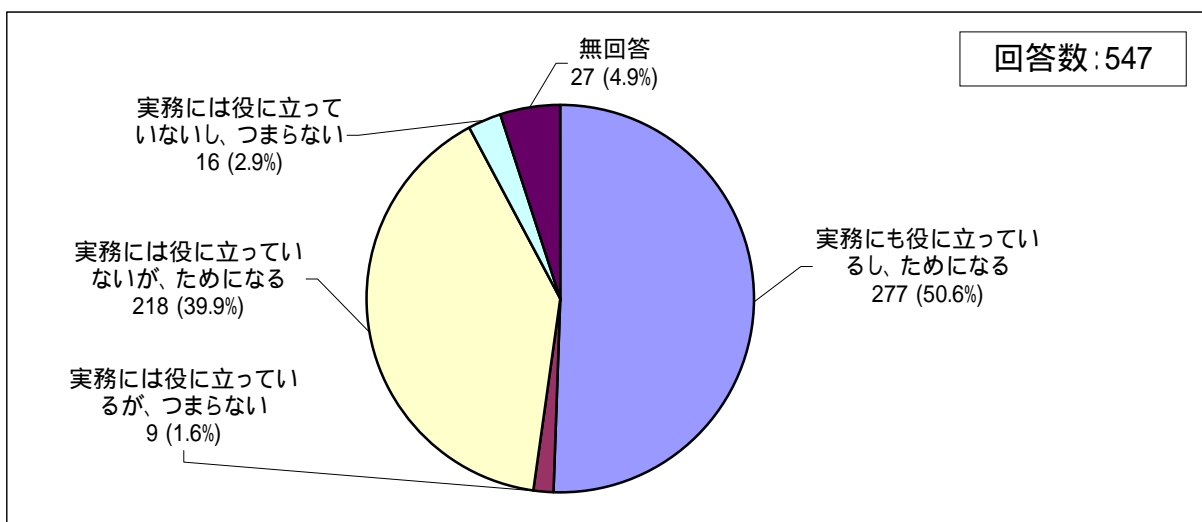
Q9. 「情報の科学と技術」誌の利用についてお尋ねいたします。該当する番号に 印を一つ選択して下さい。



<その他・主だった記述>

- ・勉強のため
- ・閲覧利用に共するため。
- ・研究活動に役立っている。
- ・知識を深めたいため。
- ・仕事は変わっても「情報収集、活用」ということで、何らかの得るものがあると思っているから。
- ・各種学会のDBアクセス権。
- ・以前、大学図書館に勤務していた事もあり、できれば継続して事例や最新動向を知りたかったの。
- ・当社が情報提供会社であることから、情報収集にかかわる動向を知りたい。
- ・様々なトピックの把握。

Q10. 特集について該当する番号に 印を一つ選択して下さい。





**Q10 - 1. つまらないとお感じになる具体的な理由などがあればお書きください。(主だった記述)**

- ・内容が、紹介、提案、実例記事となっているため。
- ・イラストや写真が多い方がわかりやすい。夜、家に帰ってからでもよえるような型にしてほしい。
- ・図書情報の記事に片寄っているような感じがする。図書館、特許関係以外の会員もいる。情報の科学の理念は何だろうか。
- ・活字が小さく読みづらい。実務に直結する話題が少ない。
- ・論点が明確でない論文が多い(とくに実務家著者)コラムや回想記事は読みたくない。
- ・あまり実務とかけはなれている話が多いので、読んでもよくわからない。
- ・自分に関連する分野(医学・薬学・企業)が少ない為。
- ・図書館人のための刊行誌としての色あいが強すぎる。
- ・構成、編集が学術的で難しすぎる。
- ・技術系の専門図書館、情報センターや、大学、公共図書館の事例、論文が多く、弊社のようなビジネス情報を主に扱う機関としては参考にできる点が少ない。時間のある時に読む。
- ・文字だけの記事、一読して難解な内容は読みたいと思わない。
- ・常に、「普遍的」テーマをなげかけることは無理だとは思いますが、学術的すぎると「とばし読み」したくなる。
- ・長い文をゆっくり読む時間がとれないので途中でやめたり、読みとばしてしまう。
- ・テーマによって役立つ時とそうでない時があるので、特集以外の企画も増やしてほしい。最新の動向を知ることができる反面、知識がなくむずかしく感じることもある。
- ・特集によっては、一部の(少数の)人達には、確かに役立っていると思われるが、もっと多くの会員が興味をもつようなものがとりあげられないでしょうか。
- ・企業の実務に直接役立つ内容のテーマ・論文が少ない。(机上論や学術研究のための論文では企業会員は、実務上のメリットがない。

**Q11. 特集について、今後取り上げて欲しい特集テーマおよびご意見がありましたら、具体的にお書きください。(主だった記述)**

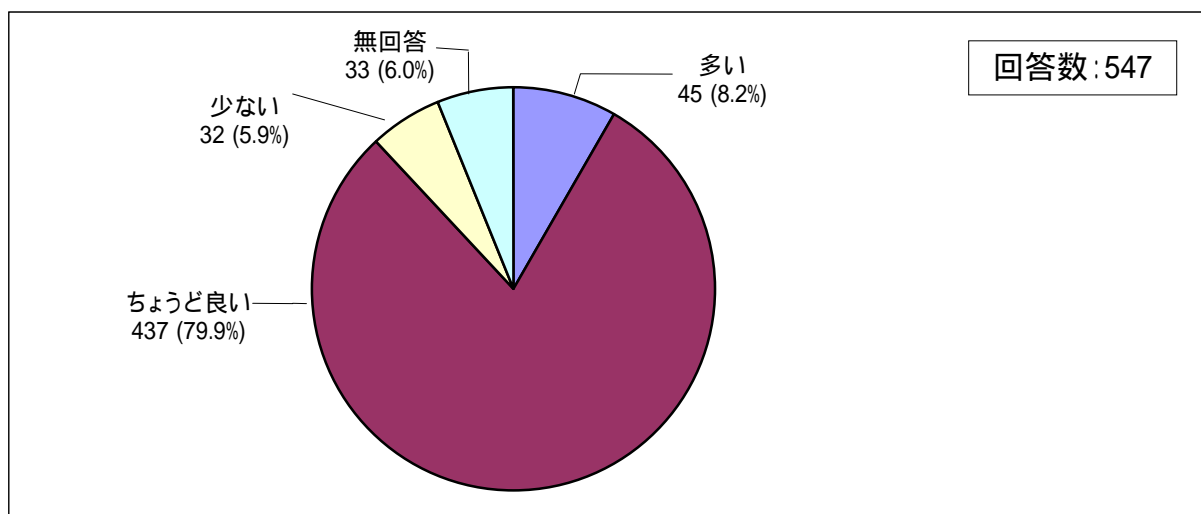
- ・特許文献、技術文献の調査機関の(データベース、料金)質などの比較(国内、国外を含む)。
- ・科学・技術情報の流通経費は誰が負担するか。
- ・電子ペーパー等新しい技術の動向。
- ・専門図書館PR方法。
- ・中国を知る情報ソース。
- ・(INFOSTA - OUG)と同様の活動を行っている海外での協会・団体の紹介、業績。
- ・各国の図書館サービス、公貸権について、図書館の評価(標準化・尺度)。
- ・コンピテンシー情報専門家のコンピテンシー、モデル構築。
- ・ファクトデータベースについての特集。
- ・分野毎のバックナンバーの価値について。
- ・情報法、デジタルコンテンツの問題。
- ・情報の組織化に関する最新の動向。
- ・個人情報保護について。地方図書館の水準と課題。

- ・今後の図書館、情報センターの役割について。
- ・TLOの現状、情報のとり方。・実践的なプレゼンとは。
- ・一次資料(原著)の具備すべき情報要素、かたち。
- ・インデクシングの動向。
- ・サーチエンジン。
- ・知的財産権法、ビジネス支援図書館、インターネット図書館、情報機関の将来。
- ・データベースのレベルの高い検索事例を多く特集してほしい。
- ・競合情報(競合企業等の情報、Competitive Intelligence)海外(特にアメリカ)の事情について。
- ・一次資料の取扱い事例の紹介(電子アーカイブのみならず、原資料の取扱い例と含めて紹介していただきたい)。
- ・著作権関係、とくに出版物にかかわるもの(引用、転載)や、インターネット関係について。
- ・デジタル情報の保存。
- ・知と情報。
- ・商用データベースのこれからの展望について。
- ・海外の情報部門活動について、企業の情報戦略について、科学技術の流通・研究について。
- ・大学コンソーシアムにみるシステム構築 。  
図書館間連携の動向(とくにシステム面)。
- ・Linux
- ・書誌記述の標準化の最新動向 情報リテラシーの事例。  
ターミノロジー。  
データの統合的研究。  
情報学基礎論。  
特許情報の統合的研究。
- ・求められるサーチャー像。
- ・オンライン上の出版物及び著作物に関する著作権など。
- ・図書館の利用者に役立つ様々な無料のデータベース。
- ・情報の加工・分析。
- ・情報サービス産業の分析。
- ・複写権問題。
- ・ユニバーサル・デザインと情報(の入手、流通)、情報専門家の働き方(労働環境、企業等に属さないNPOは可能か)。
- ・情報源探索手法(ノウハウ)スタッフ教育、分類法の教育。
- ・初等中等教育における情報リテラシー教育について(現状・動向・今後の課題等)。
- ・ヨーロッパ方面の図書館、情報機関等の現状・動向。
- ・出版不況。
- ・社内エンドユーザーのツール整備、教育などの紹介。工夫した検索事例などの紹介。
- ・インターネットから収集できる疾患の患者数最新動向(国内外)、疾患に対する治療薬、売上げ最新動向(国内外)のURLの情報。

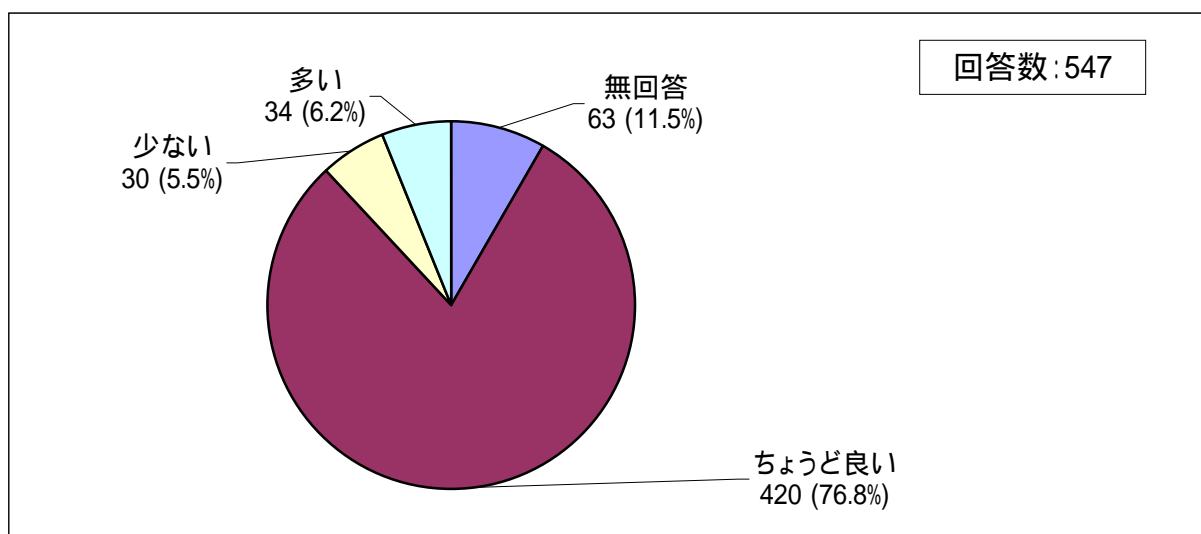
- ・論文のスタイルについて。情報サービスに関わる者の倫理。
- ・Web 入手後の情報の加工、グループウェアを利用した社内情報管理。システムダウンからの情報をいかに守るか。
- ・企業内の経営情報システムの具体例。
- ・情報発信と情報収集の関係。
- ・新入社員教育の成功例、失敗例、& 例外。
- ・検索エンジンのアルゴリズムと調査での注意点。
- ・図書館 / 情報部門に応用可能な技術群の解説、実用例 (LDAP、SLP など) を取り上げて頂ければと思います。

Q12. 特集は通常、原則として6論文(1論文あたり6ページ)の構成になっています。この構成について、どのように感じていますかお尋ねいたします。該当する番号にそれぞれ 印を一つ選択して下さい。

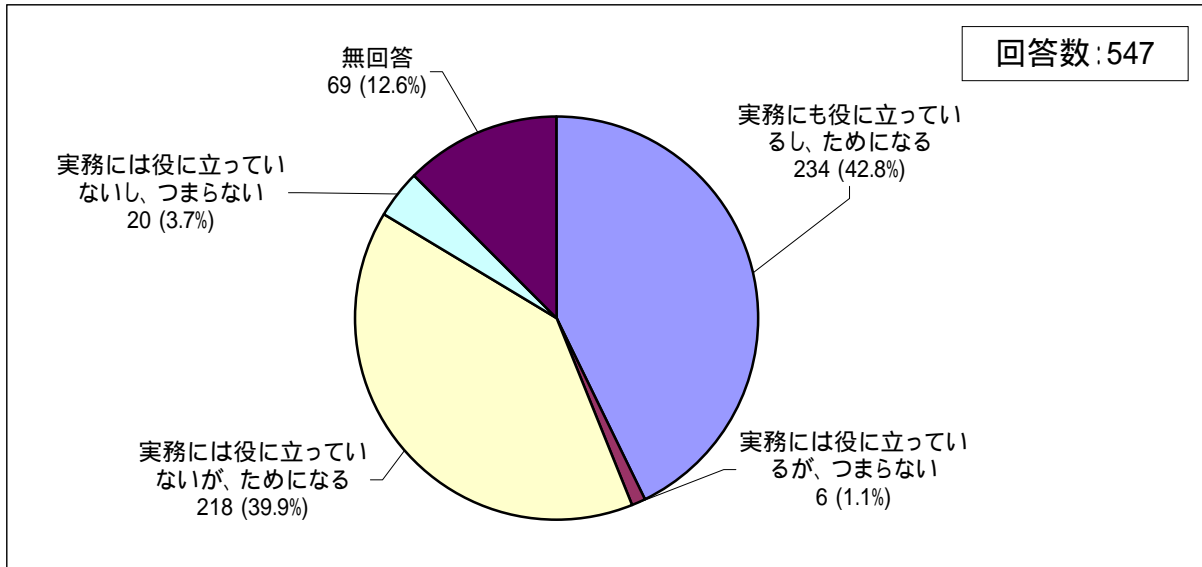
#### 論文の数



#### 1論文あたりの分量



Q13. 連載の「INFOPRO の FAQ」や「INFOSTA Forum」について該当する番号に 印を一つ選択して下さい。



Q13A つまらないとお感じになる具体的な理由があればお書きください。(主だった記述)

- ・もう少し外部の専門家の意見、外からみた意見等がわかればおもしろい。
- ・読みたいと思わせるような誌面ではない。
- ・現実離れした世界を感じる。現実はもっとドロドロしている。
- ・次の時代を負う、担うのは誰かの視点がほしい。
- ・狭い領域(狭いコミュニティ)が対象になっている印象が強い。
- ・抽象的ですがこのような記事が多くあってよい。固くなった頭をやわらかくするのにも。
- ・FAQ = 自分の仕事に無関係な内容が多いため。Forum = 個人的な話には興味がないため。
- ・頁数が少ないので、内容が断片的になる傾向がある。
- ・サーチャー向けの技術向上に関するものが少ないから。

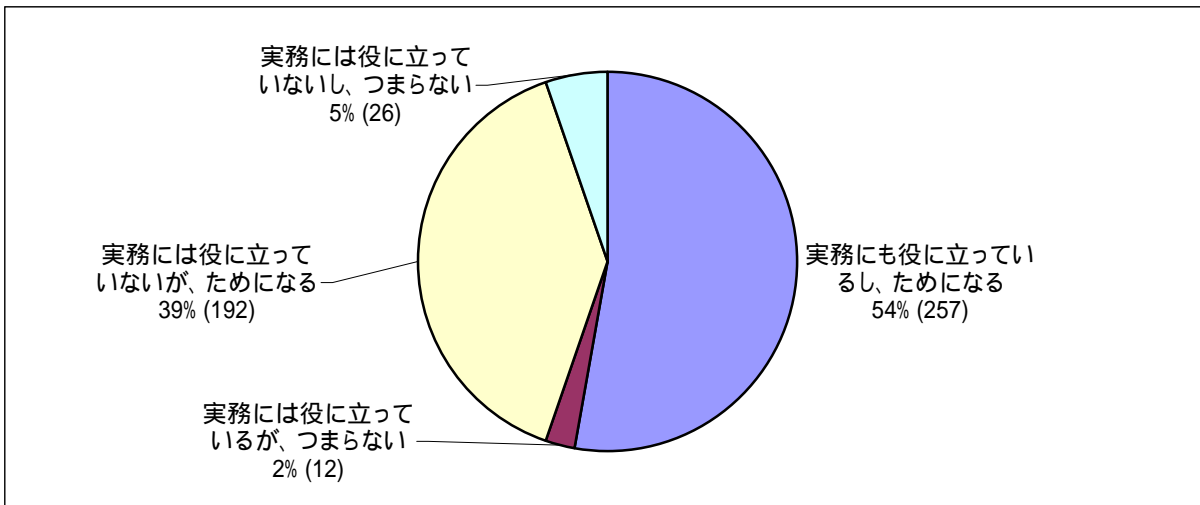
Q14. 連載について、今後取り上げて欲しい連載テーマおよびご意見がありましたら、具体的にお書きください。(主だった記述)

- ・複写権問題
- ・サーチャー試験の過去問を例に模範解答と検討などをやっていただけると、役に立つと思います。
- ・図書館内のレファレンスQ & Aをやって欲しい。
- ・特許について。特許検索について。知的財産について。
- ・online journalの動向等、毎回でなくとも良いが、年に2～3度このテーマで取り上げて欲しい。FAQについて、会員からの質問を受け付け、それに対する答えを載せていってはどうかと思う。
- ・インターネットと著作権 / 電子ジャーナル。
- ・専門図書館のPR方法、活性化策。
- ・検索のためのヒント。サーチャーQ & A。

- ・FAQは実践的で、読み物としても楽しく拝見しています。こうした内容で特集は組めないものでしょうか？
- ・社内の特許システム(書誌情報、技術情報の検索システム、ワークフローシステムとの合体)。
- ・ネットワーク管理、関連。
- ・スタッフマニュアルの作成方法など。
- ・情報リテラシーの教育 ・インターネット時代の論文作成法。大学生の情報リテラシー教育に役立つサイト百選。
- ・各地の図書館のレファンスDBについて。
- ・サーチャーは試行錯誤の連続である。失敗談を連載して欲しい。
- ・企業情報など検索について。
- ・ドキュメンテーションの歴史。
- ・論文執筆あるいは学会発表(プレゼン)のための役に立つ豆知識。
- ・各自の、独自(これは他にはやってないだろう...)の工夫案の紹介。
- ・商用DBの選択のコツ。FAQ。
- ・IT社会に対応した情報管理。
- ・ネット上の医薬情報。
- ・検索とか加工のツールを紹介してほしい。
- ・インターネットの有効な(効率的な、効果的な)利用法について。
- ・図書検索システムのあり方。図書館情報の電子的処理・加工利用システム。
- ・各学問分野の動向や研究上の性質などが、知ることのできる連載など望んでおります。
- ・情報を取り扱う上で役立つ技術の最新の情報。
- ・いろいろな分野の専門的情報の収集・分析・評価の方法。主題に対する知識の付け方。
- ・情報発信や提供の他部門への効果的・効率的な事例。
- ・図書館内設備の利用については興味があるので、また取り上げて頂けたらと思います。
- ・図書館実務上の著作権対応、電子情報の契約と利用と支払方法の工夫、公共図書館における電子情報の利用。
- ・試験合格者の声などが記載されていた時、興味を持って読みました。大学または図書館の情報関係の事、書店などの実務の声を調査してまとめた記事などがあれば読んでみたいです。
- ・著作権制度の中から、重要なもの、あるいは改正などによってぜひ知っておくべき事項などについて連載して頂けたらと思います。
- ・サーチャースキルアップ工夫術。意外に起きやすい検索モレの実例とその対策など。
- ・レファレンツール(書籍、有料DB、インターネット、専門機関 etc)・有料DB(JSTなど)提供元の収録対象誌減と聞いているので、それに代わるものの紹介。
- ・英文抄録のかき方。統計手法。メタデータ記述法。
- ・学術サイト。Internet上のFREEの情報源で、有益なものを紹介してほしい。代表的なものはPubMed, Agricolaですが、くわしいひとにリレー形式で紹介してほしい。
- ・Webによる社内情報管理。Webシステム構築体験記。
- ・Keywordの作成法。

- ・各機関の情報システム紹介。
- ・情報リテラシー関連の指導例など。

Q15. 書評・新刊紹介のページについて該当する番号に 印を一つ選択して下さい。



## 出版物についてお尋ねします。

出版委員会担当の出版事業に関する質問(Q16～Q18)では、これまでの協会出版物の購入理由、販売価格、購入方法について回答を得た。

質問の性格上、回答の多くは協会出版物を購入したことのある会員から寄せられたものである。実際に協会出版物のどこに魅力を感じて買ったか、販売価格は適正であったか、どのような方法で購入するか、の三点について会員から貴重な回答を得ることができた。回答を要約すると、

- ・購入理由は、タイトル・テーマと情報管理・情報検索等への興味に大別される。
- ・販売価格は、整合性・専門性・密度等と価格のバランスにより評価される。
- ・購入方法は、協会への申し込みが最も多い一方で書店で購入が意外に多い。

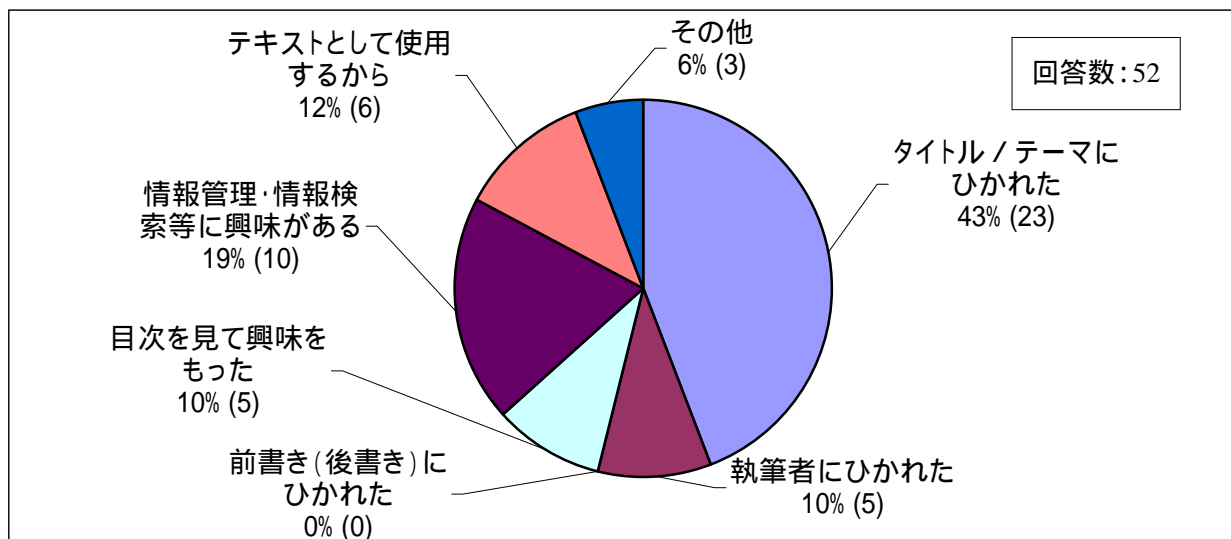
という結果となった。

以上の結果を受け、今後は、

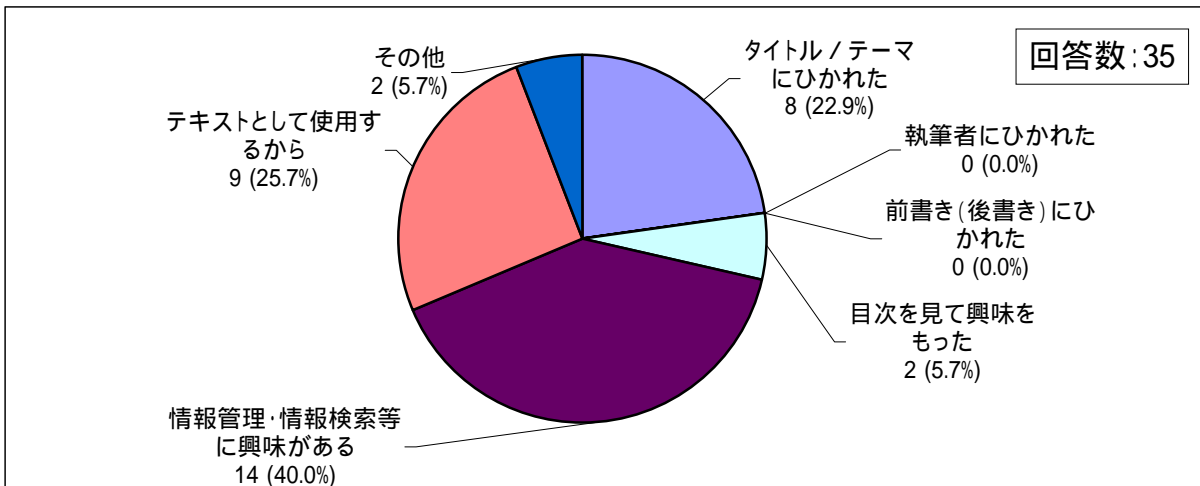
- ・協会会員および会員以外の読者に読んでいただける魅力ある内容と価格の組み合わせ、
- ・魅力ある協会出版物の一層の拡販に向けての書店販売の検討、等の対応が考えられる。

Q16．協会で現在発行している主な出版物のタイトルは以下の通りです。購入して利用している方にお尋ねいたします。該当する番号に 印をしてください。回答は複数選択しても構いません。なお、右欄の購入理由を一つ選択して番号を( )欄に記入して下さい。

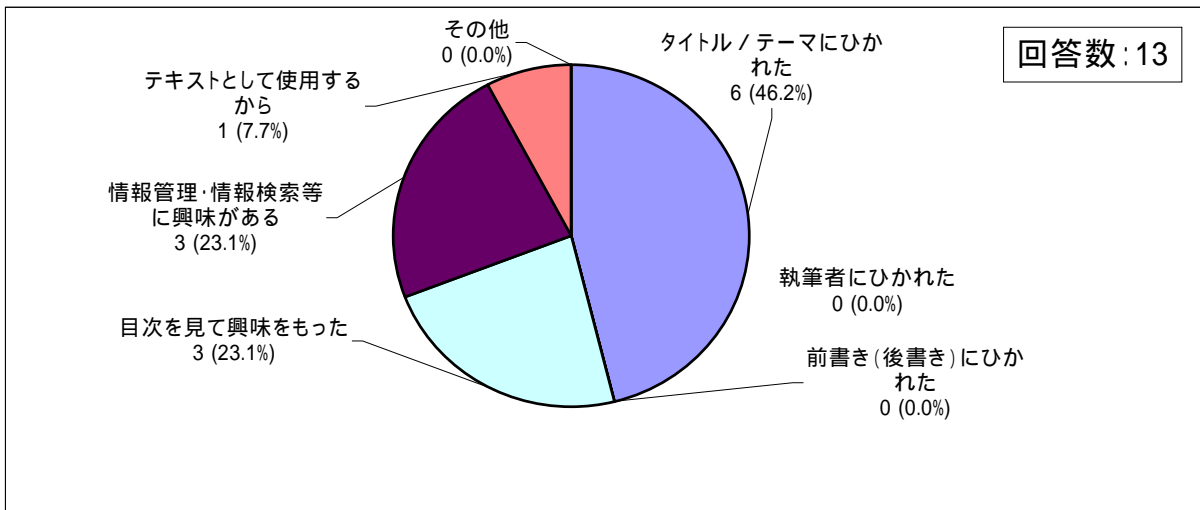
### 1．論文と抄録の書き方



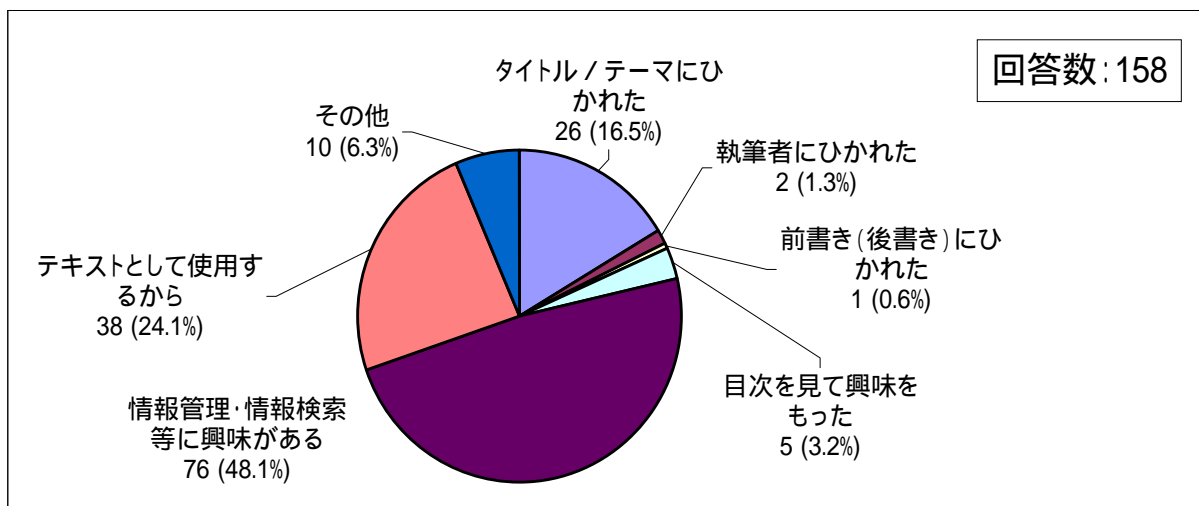
## 2. UDCの書き方



## 3. 一般用語学入門および用語辞書編集法

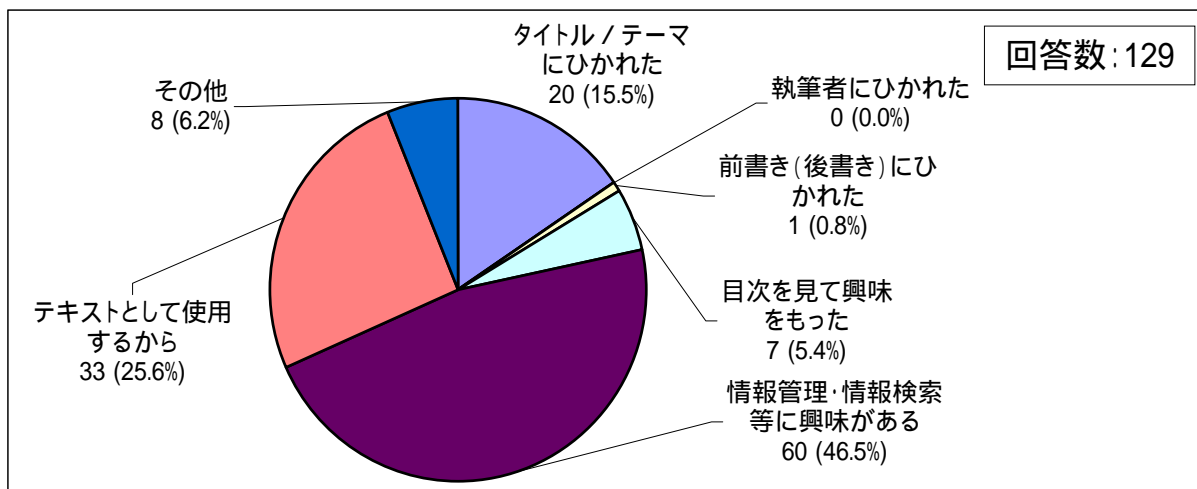


## 4. 情報管理入門(5版)

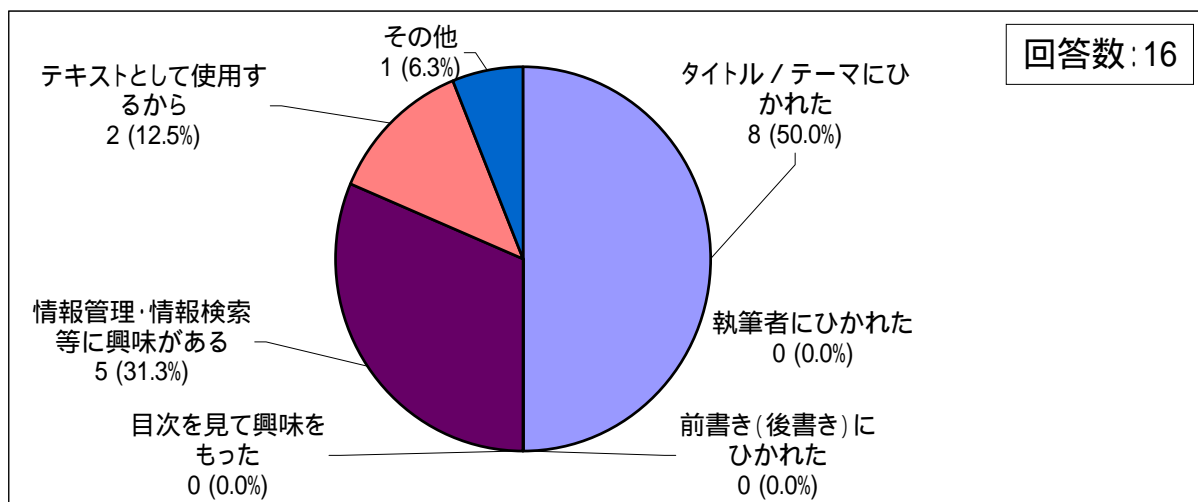




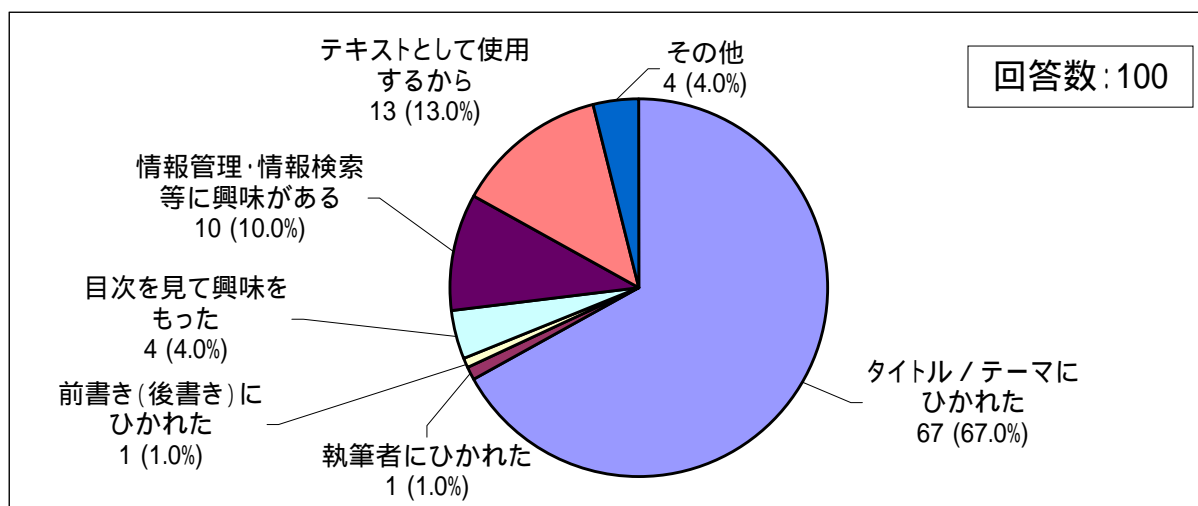
## 5. 情報の管理と検索



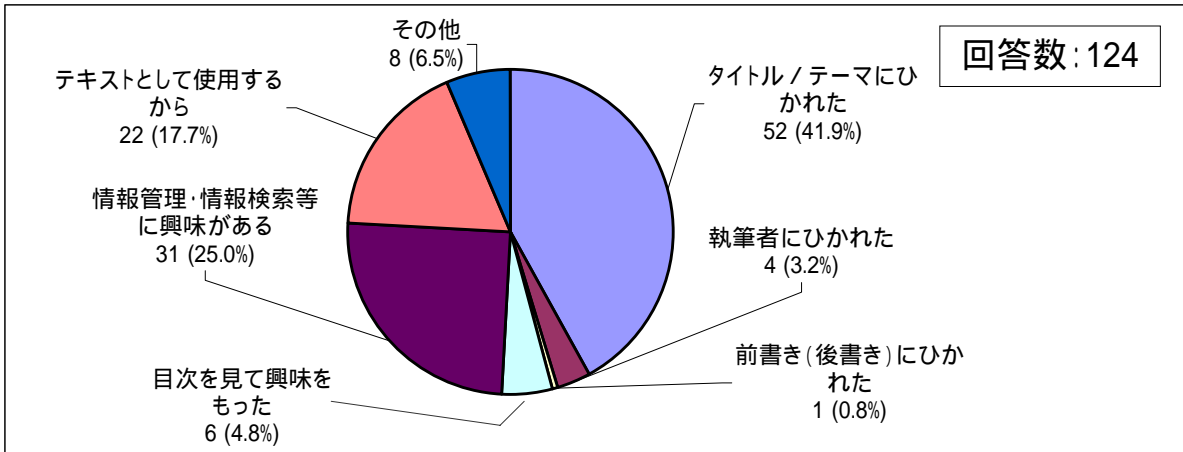
## 6. インデキシングによる情報内容の明示



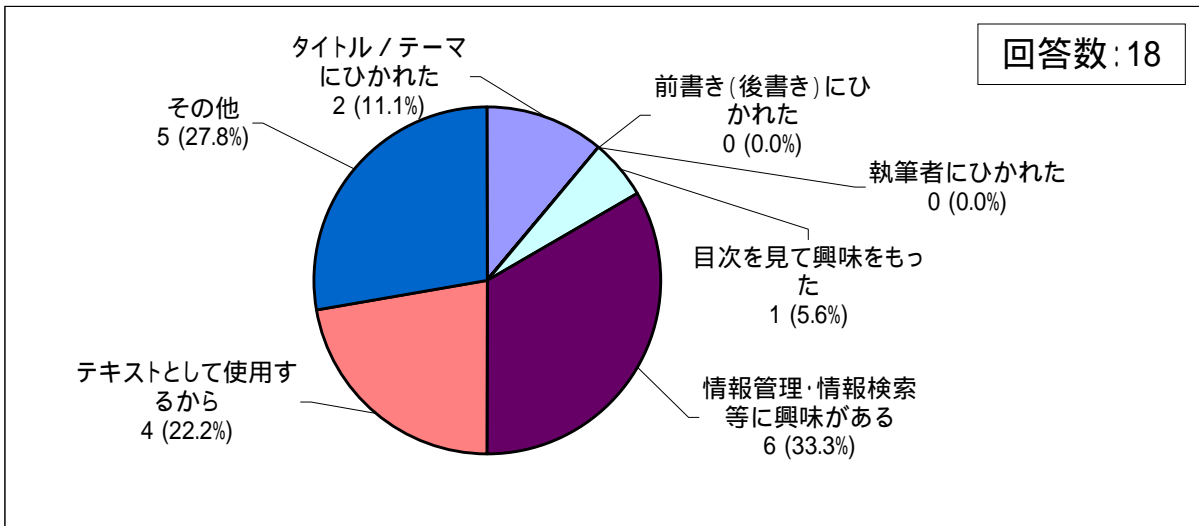
## 7. 実践! 図書館・情報部門のホームページ作成



## 8. ひとりでできる特許調査



## 9. 国際十進分類法 (UDC) CD-ROM版



### <その他>

- 試験対策。
- 出版にかかわったので。
- 試験のため。

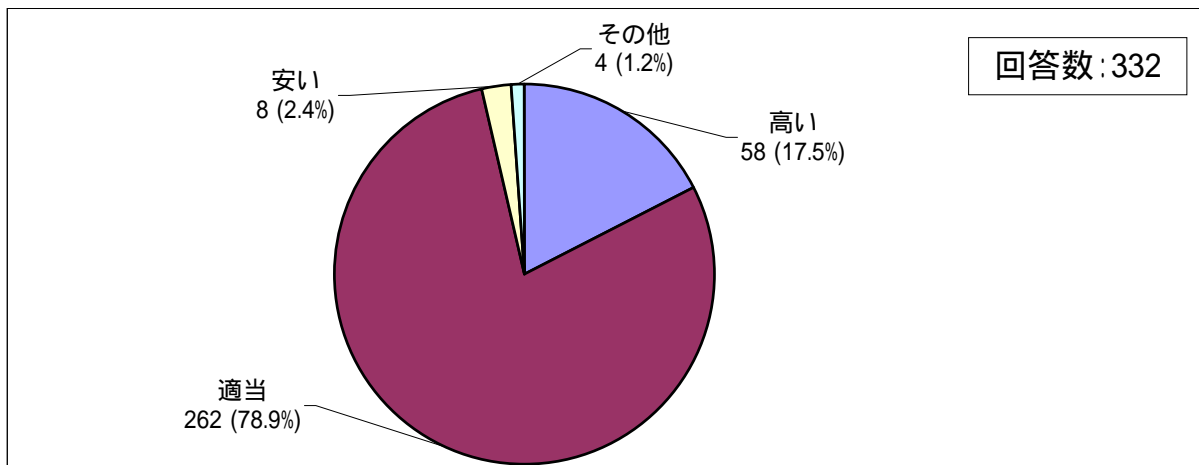
6 (テキストとして使用するから) に似ていますが、常備参考書として。

- サーチャー試験の参考書として。
- 図書館所蔵資料。
- ツールとして利用。
- 知識の確認。
- 教材として使用するから。
- とても参考になるから。
- 翻訳に参加したので。

- 試験勉強用。
- 情報検索基礎能力試験受験準備として。
- UDC 編集の参考に。
- 編集委員の宣伝による。
- 執筆者（作者）より直接売られた。
- ほとんどのものは委員、委員長として手がけたので、どれも有用で多くの方々に活用していただきたい。
- 委員として出版にかかわったため。
- 試験を受けるため。
- 役にたち（？）たいか（？）
- データベース検索技術者認定試験の為。
- 実務で必要だから。
- 実務上必要なため。
- 図書館として購入。
- 参考資料。

Q17. 協会で近年に発行された出版物の販売価格は適正であるかお尋ねいたします。右欄の中から一つ選択して（ ）内に番号を入れなさい。

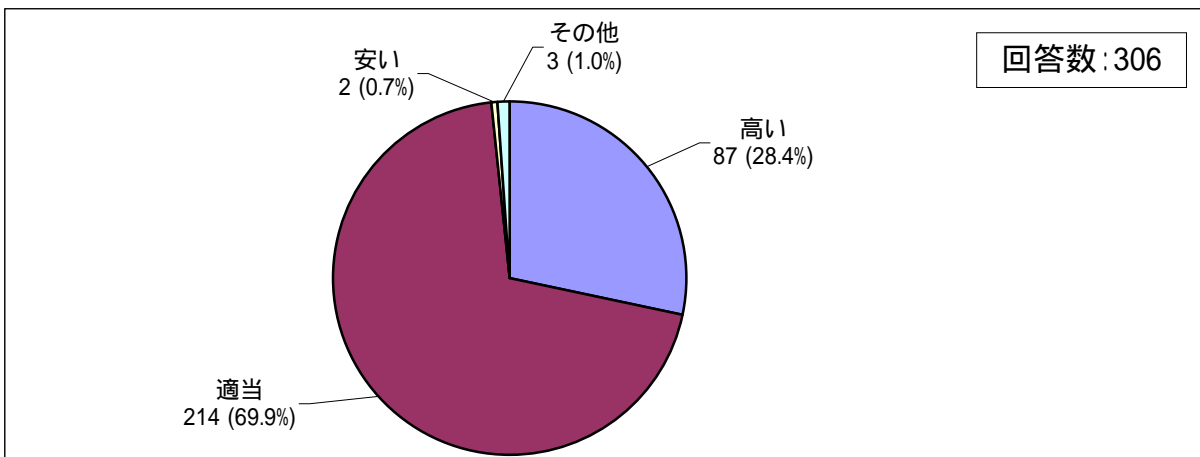
1. 情報の管理と検索（2,000円、153p）



<その他>

- わからない。
- 現物を見ていないので何ともいえません。

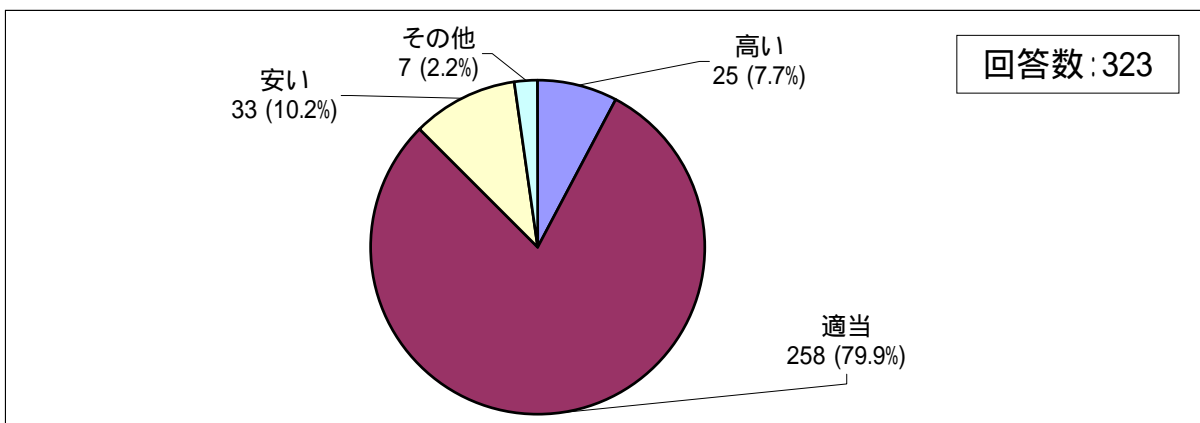
## 2. 実践！図書館・情報部門のホームページ作成（2,205 円、170 p）



### <その他>

- 分からない。
- 現物を見ていないので何ともいえません。

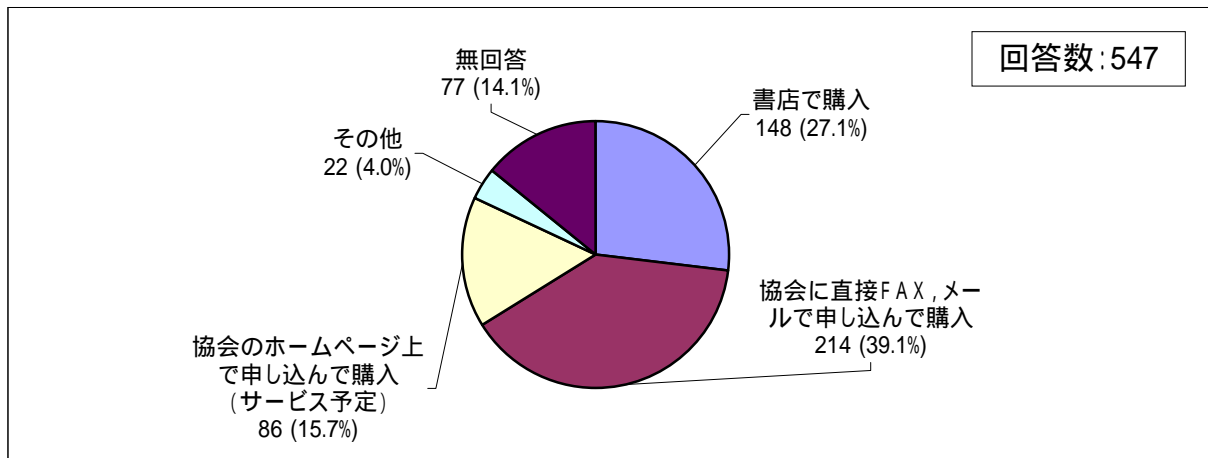
## 3. ひとりのできる特許調査（1,800 円、129 p）



### <その他>

- 分からない。
- 何とも言えない。
- 現物を見ていないので何ともいえません。
- 現品を見ないとわからない。
- 自分には縁がないのでわからない。

Q18. 協会出版物の購入方法についてお尋ねします。購入される場合のルートとしてどの方法を選ばれますか。該当の番号に 印を一つ選択してください。



<その他>

- 勤務先を通じて。
- 社内の図書担当から業者に依頼。
- 協会に出向いて購入した。
- 大学生協。
- 会社で購入。
- AMAZON.COM。
- 会社の取引書店で購入。
- 電話で依頼。
- ネット書店。
- 書店に一括注文。
- 出入りしている書店の方をお願いする(と思う)。
- 協会のホームページ上で申し込んで購入(サービス予定)で申し込み、クレジットカード又は電子決済。
- 弊社図書館経由で書店より購入。
- e-BOOKS。
- 現在は殆ど購入していない。
- イベントで(送料がいらないので)。
- 図書館担当の書店さんへ依頼。
- 社内の図書購入担当者に依頼し購入手続きをしてもらう。
- 協会の出版物は直接申し込んで購入していました。

## セミナー・シンポジウムについてお尋ねします。

研修委員会担当のセミナーとシンポジウムに関する質問（Q19～Q25）では、これまでの参加の有無とその理由、参加費の金額、開催希望の曜日やテーマ等について回答を得た。回答者の約半数はセミナーへの参加の経験がなく、その主な理由は、時間が取れない、会場まで遠い、参加費が高い等であった。シンポジウムに参加したことがない理由についても、ほぼ同様の結果であった。参加費については、セミナーに参加したことがある回答者でも、約半数が高いとの回答であった。また、今後のセミナーについては、平日または土曜日の開催を希望する回答者が半数以上を占め、専門知識の習得や話題のトピックスに関するテーマへの希望が半数以上を占めた。

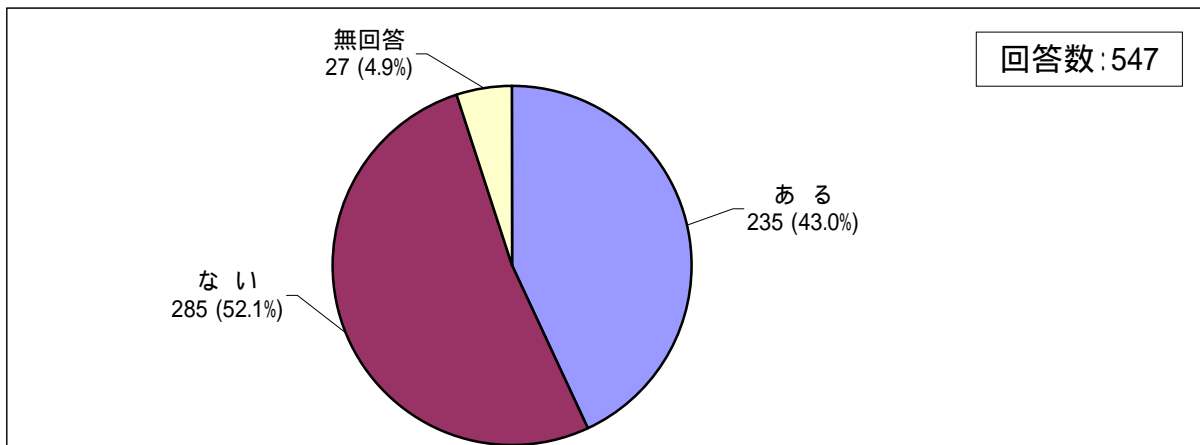
以上の結果を受け、今後は、

- ・参加費・内容とも、会員としての特典が得られるセミナーを目指し、参加費は一律に設定するのではなくセミナーごとに検討する。
- ・平日のみでなく土曜日や日曜日に開催のセミナーも検討する。
- ・具体的な開催希望テーマに加え、管理者向けのセミナー、OUGの活動成果報告会、などの意見も参考にして今後のセミナーを企画する。

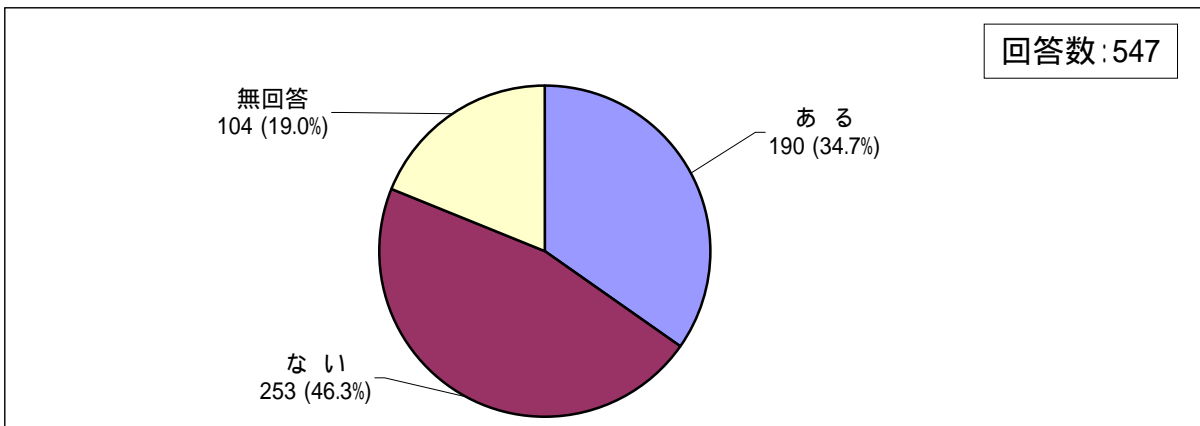
等の対応が考えられる。また、より魅力的なシンポジウムを実現させる手がかりとして、今回のアンケート結果を勘案することが必要である。

**Q19．INFOSTA主催のセミナー・シンポジウムに参加したことがあるかお尋ねいたします。該当する番号に 印をしてください。**

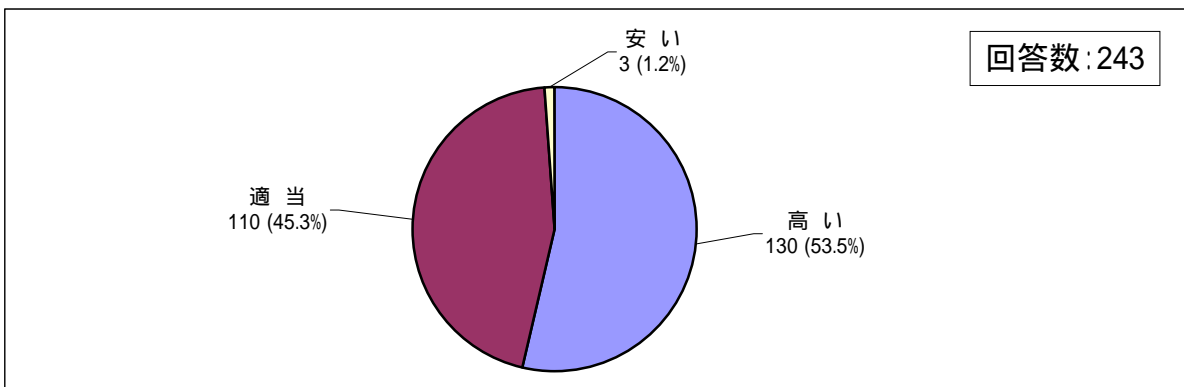
### セミナー



## シンポジウム



Q 2 0 .セミナーに参加した方にお尋ねします。当協会の参加費は、原則として半日コースは 8,400 円、一日コースは 15,750 円です。この参加費について、該当する番号に 印をしてください。



(以下、回答ごとに理由を抜粋)

### 1. 高い

- セミナーの参加費が年会費に相当するのは高すぎる。
- 会員は資料代程度にして欲しい。
- 会員割引率を増やしてほしい。
- 会員の参加費を格安にできないでしょうか。会員のメリットを増やして欲しい。つまり、会員メリットが多ければ会員になる方が増えるのではないかと思います。
- 1万円以上は社内決済が必要な為。
- 半日5,000円、1日10,000円程度が良い。
- 半日6000円 1日1万円位のところが多い。
- 出張費は交通、宿泊のみなので。
- 個人負担する場合、5000円以上は出しにくい。
- 費用は個人負担なので交通費とも含めて高く感じる。
- 個人(実務家,研究者でない)で全くの私費なのでかなりの負担。
- 公費(出張扱い)でなく、私費(個人として)で参加したい時の負担が大きい。

- セミナーの目的、対象の受講者や、講師によって価格は変えるべきだと思う。現状の時間による決め方は少し無理がある。
- 実務に役立つ可能性が相当高くないと、この価格設定では参加できない。
- 高いというよりも、値段に見合った成果が得られなかった。
- 似た無料のセミナーもあるので高く感じる。
- 他のセミナーと比較してもそれほど会員としてのメリットが感じられないため。
- 本が雑誌を読めばわかるような内容であり会員にとっては高く感じる。
- 資料も少なく、2時間程度の講演で8400円は非常に高い。

## 2. 適当

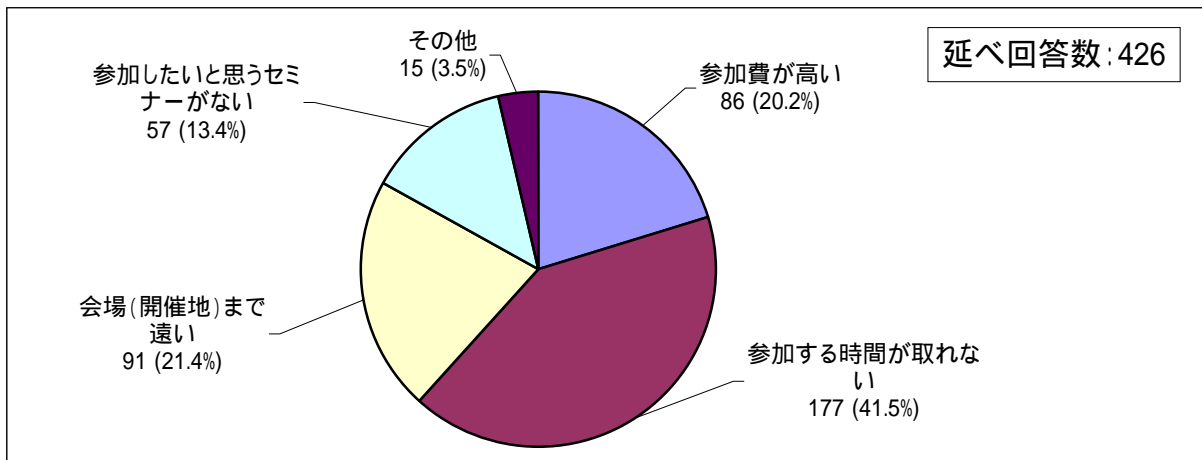
- 適当だと思いますが、もう少し安いとなおさら良いと思います。
- 勤務先から研修費として出してもらいやすい金額です。
- 席もゆったりしていて、資料も豊富。
- 内容により感じ方は違うが、一般の他のセミナーと比較してそれほど差を感じない。
- 他協会は、もっと高い。
- 他協会の講習会と比べても妥当。
- 他機関のセミナーと比べて特に高すぎも安すぎもしないと思います。
- セミナー内容で満足できたから。
- 内容が充実している。
- 配布される資料なども役に立つので、良いと思います。
- この程度は必要と考える。
- 会場費、その他費用からみて妥当と思う。
- 利益を出しすぎてなければ適当。
- 開催コストと参加者数を考えればこの程度は取らないと採算割れになると思います。
- これ以上、高くなると困るが、この金額は、必要経費としていられるので。
- 安いに越したことはないのですが。
- 最悪個人で負担できる限度(?)だと思う。
- 資料の充実度にも左右します。

## 3. 安い

- 営利会社主催のセミナーに比較すれば。
- もっと高くてもよい。



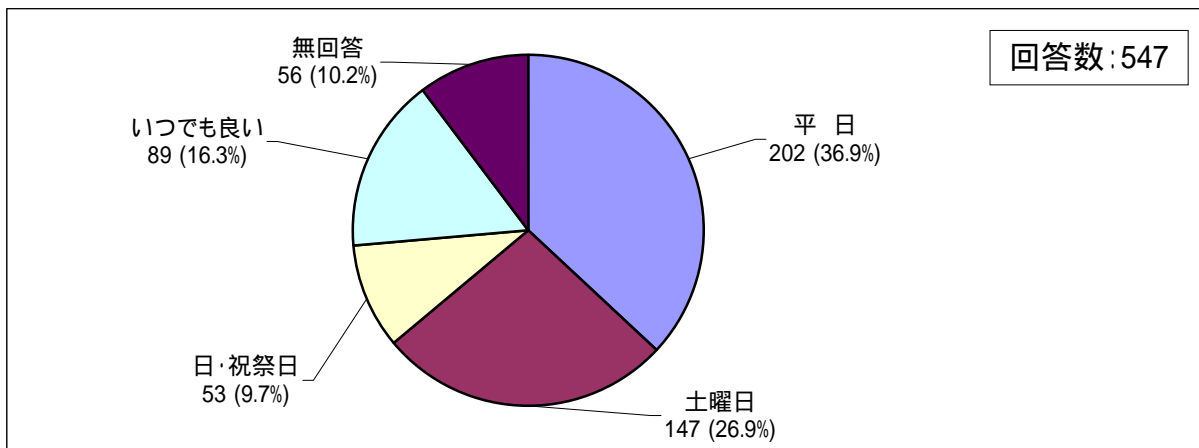
Q 2 1 . セミナーに参加したことがない方にお尋ねします。参加したことがない理由は何ですか。該当の番号に（複数選択可） 印をしてください。



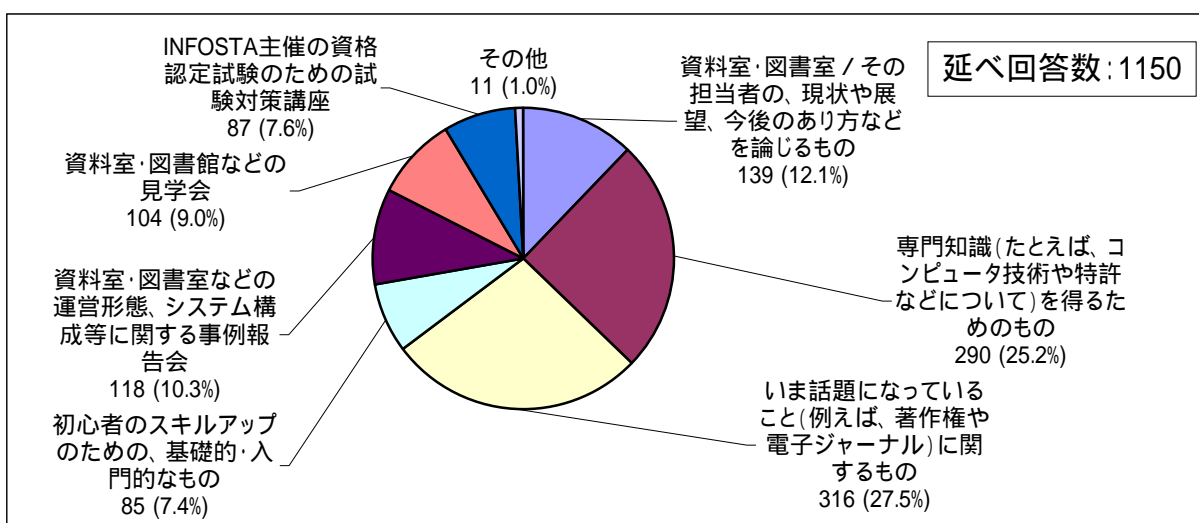
#### <その他>

- 時間等、余裕がなかったので。
- 年を取った。
- 参加したいが日程が合わない。
- 他の類似セミナーに参加。他の情報源より入手。
- 退職してから年数も経ち、特に参加する気がなくなった(孤立した環境)。
- 敷居が高い。
- いつも情報紙がとどくのはセミナー等が終わったあとが多い。
- 参加費とセミナー内容の魅力を照らしあわせた末、参加費の高さに負けてしまう。
- 現在、興味がない(仕事で使わないから)。
- その時のいそがしさで何となく参加していない。
- まだ入会したところなので。
- 参加申込みをして直前に不参加にしたことがある。現在の状況は、参加する時間がとれない場合や会場(開催地)までが遠い理由。
- 体調不良のため。
- 内容・料金等検討した結果、参加するにはいたっていない。
- 最近3年間実務についていないので参加していない。実務についていれば実務に直接関係のあるセミナーには参加しようと思っています。
- 会社からの予算がとれない。

Q 2 2 . セミナー開催曜日の希望日をお尋ねします。該当する番号に 印をしてください。



Q 2 3 . 開催を希望するセミナーについてお尋ねします。今後参加してみたいセミナーを選んで、該当する番号に 印を（複数選択可）してください。



<その他>

- 経営者の視点をもった図書館運営、情報マネジメント。
- 実務担当者向けでなく、管理者向けのセミナー。
- ビジネス、経営戦略構築に関連したもの。
- 中、上級者のスキルアップ、情報交換のための事例報告、意見交換など。
- 1次情報の加工、分析。
- 情報管理に関連性する隣接専門知識(例、デジタルアーカイブ、マルチメディア著作権)。
- サーチャー、司書の待遇改善についての会。

Q24 . INFOSTA セミナーでは是非取り上げてほしいテーマおよびご意見があれば、ご自由にお書きください。

(以下、主な項目ごとに回答を抜粋)

### 法的問題、特許等について

- 企業図書室の著作権について。
- 著作権 / 電子メール / 複写権。
- 情報法、サイバー法。
- 知的財産権関連、知財関係とその流通。
- 特許・著作権等の無体物をベースとして広く知的財産関連のセミナー。
- 特許調査。
- 商標の管理。

### 電子ジャーナルの動向

- 複数の出版社の最新情報。
- 洋雑誌、電子ジャーナルの価格。

### 実践的な検索方法

- インターネット検索。
- 無料インターネット検索の使い方。
- 多言語横断検索システム。
- 商用データベースとインターネットとの併用技術。
- インターネットの情報の信頼性と収集・分析のコツ。

### コンピュータ技術

- 通信インフラの整備の現状と将来。
- 情報機関にとっての情報セキュリティ技術。
- ネットワーク構築・管理(技術的なもの)。
- XML
- データマイニング。
- CGIやPerlの入門的なセミナー。

### 専門図書館

- 専門図書館PR方法、活性化策。
- 企業の資料室等の運営(特に、別会社方式を対象に)。
- 企業図書館の図書管理システム、情報検索の高度化(解析スキルアップ)。
- 社内ホームページの事例。

## Indexing

- Indexing 言語としてのUDCの今日的意義—UDC CD-ROM版発刊記念として—。
- インテグレーションの理論と実戦。

## 図書館経営

- 図書館経営の視点から見る図書館サービス。
- 図書館、資料室での予算獲得テクニック。
- 中・小図書館の生き残り戦略。
- 異なった館種の連携協力関係の構築とその課題。

## 情報格差

- 学術情報流通の担い手の寡占化傾向と情報格差。
- 地方図書館の現状と課題～情報格差の是正に向けて～。

## 情報教育

- 教育コンテンツ、e-ラーニングに関する講演または討論会、意思交換会。
- 情報リテラシー指導法。

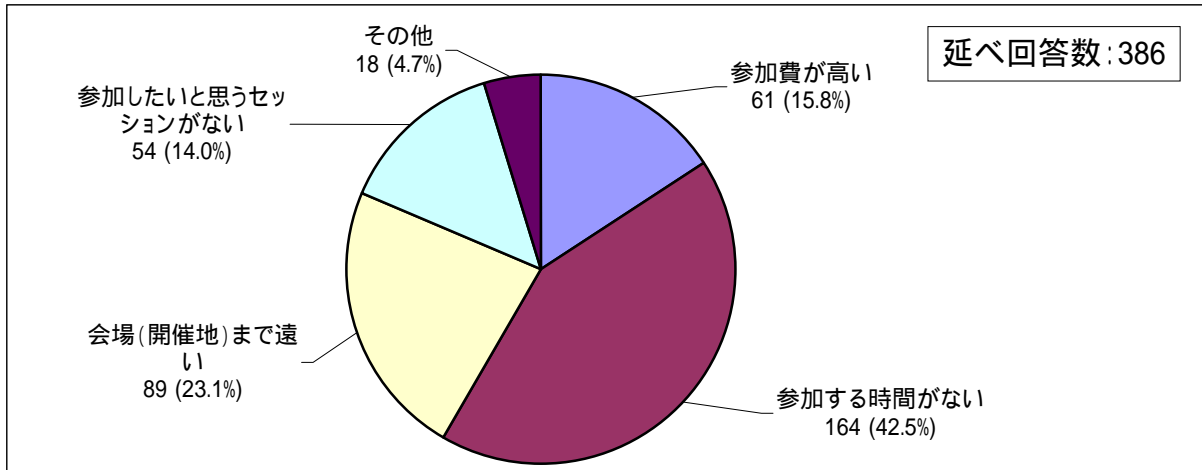
## 協会事業について

- OUGの活動成果報告会のようなもの。
- 1級試験へ向けた、レベルアップのための講座。

## その他

- ドキュメンテーションの入門講座的なもの。
- 国立国会図書館の見学(関西館)、電子図書館を構築している大学の見学。
- 検索データの加工、編集方法事例。
- 情報機関のgeneral、totalな視点からの情報(information)についての講演等。
- 情報収集関連テーマ。
- 情報専門家の必要なスキル。
- 電子政府、電子自治体、e-japan
- 自分が情報検索講習等の講師となる際の進め方等のノウハウ。
- 情報検索から一步発展した動向調査等の事例紹介。
- 欧米大手企業の情報活動事例。
- 統計のさがしかた、人物情報のさがしかた、など。
- 医薬関連。

Q25. シンポジウムに参加したことがない方にお尋ねします。参加したことがない理由は何ですか。該当の番号に をしてください。回答は複数選択しても構いません。



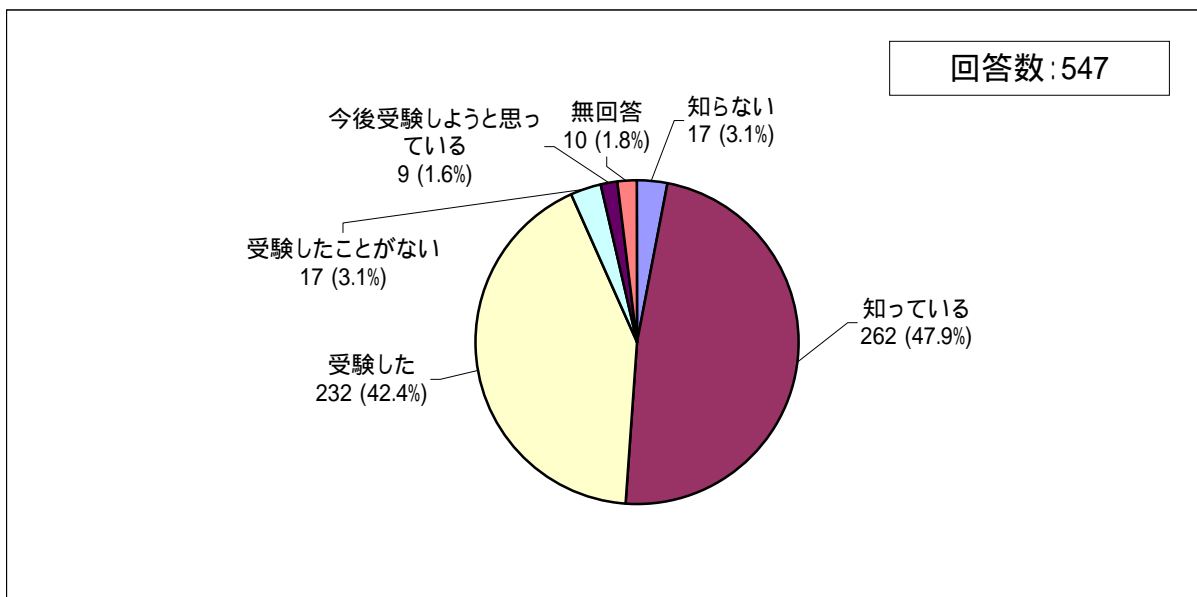
<その他>

- 他のスケジュールと重なった。
- 健康上の理由。
- 日程が合わない。
- 他のシンポに参加。他の情報源より入手。
- 敷居が高い。
- 案内のとどくのが遅い。
- 仕事で関係ないから。
- 興味の範囲と焦点がシンポジウムと一致しない。
- 専門ではないので、機関紙を通じてエッセンスを学べれば十分という意味合いもあります。
- 参加できる日でなかった。また場所が関西でおこなわれるものが少ない。

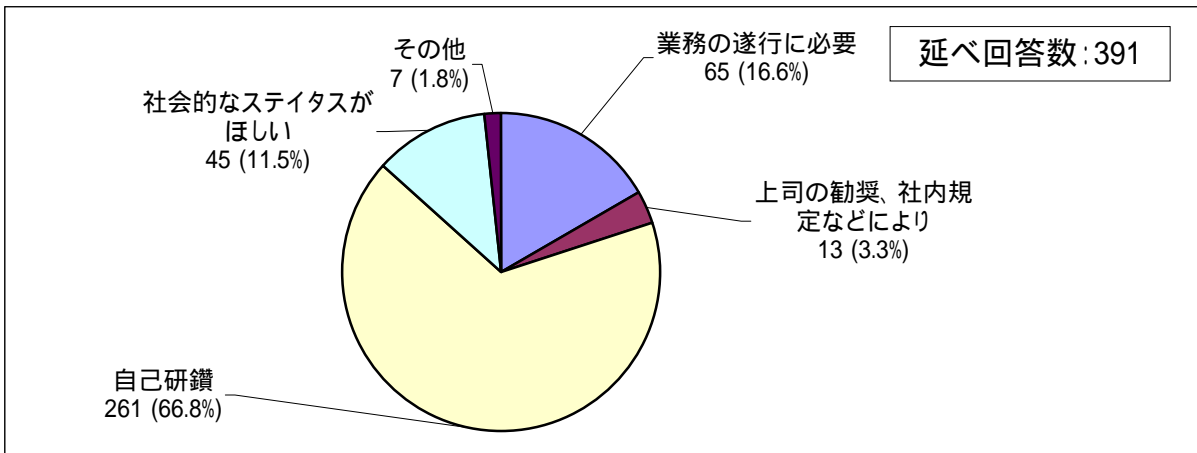
**認定試験についてお尋ねします。**

認定試験委員会担当に関する質問(Q26～Q35)では、「データベース検索技術者認定試験」の認知度、受験の有無、受験理由、受験料負担者、試験に対する改善、合格のメリット、受験者減少理由、サーチャーの将来、および2003年度から新試験制度に変更されることに関して回答を得た。回答者の試験認知度は高く、受験者の受験理由は自己研鑽が最多であった。また、未受験者の理由としては、試験勉強の時間が無い、自信がない、必要がないといった理由であった。受験者が試験精度や試験内容に対する改善として、過去問の解答の発表や1級・2級の受験用テキストの発行希望などを中心に意見が得られた。また試験回数も年2回の希望が多かった。受験者数の減少理由には多くの意見が寄せられたが、インターネット時代になり、サーチャーという職業が特別の仕事ではなくなった、この試験の知名度が低い、PR不足、国家試験でないといった理由などが挙げられた。サーチャー(情報専門家)の将来に対しては、高度な情報専門家は必要であるが、仕事の質的变化が要求されているという意見が多かった。新試験制度への変更に関しては、52.8%が知っており、主に協会の機関誌「情報の科学と技術」から情報を得ていた。今後は、新試験制度の広報活動に力を入れると同時に、インターネット時代にふさわしい情報専門家の養成と資格認定を実施していく必要がある。

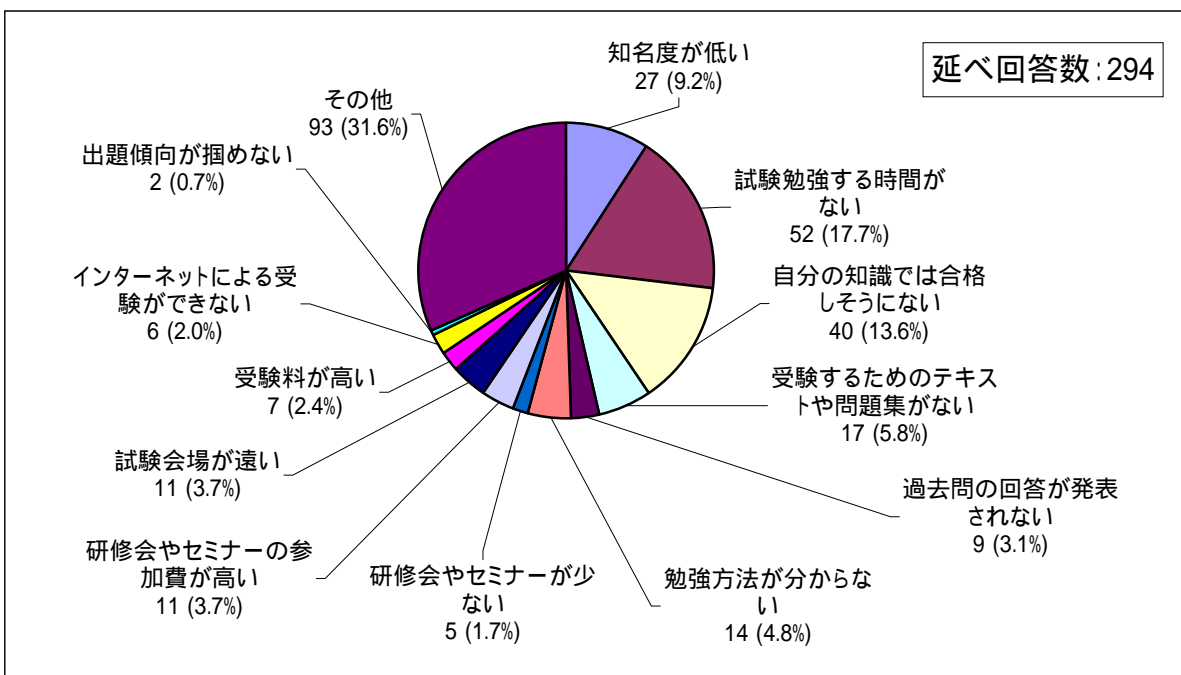
**Q26 . 協会が実施している情報検索に関する認定試験についてお伺いします。1985年度から2002年度まで実施された「データベース検索技術者認定試験」(通称サーチャー試験)2級・1級を知っていますか。該当する番号に 印を一つ選択してください。**



Q27. 受験をする理由をお尋ねします。該当する番号に 印をしてください。回答は複数選択しても構いません。



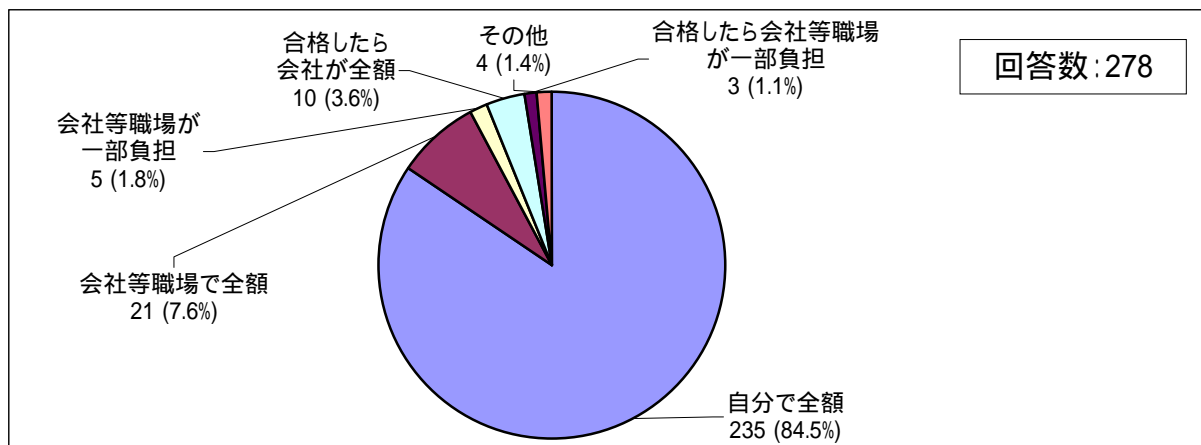
Q28. 受験したことがない方にお尋ねします。その理由を該当する番号に 印をしてください。回答は複数選択しても構いません。



<その他>

- 必要性を感じない。(45名)
- 高齢である。
- 興味・関心がない。
- 現在の仕事内容と直接関係がない。
- 合格してもメリットがない。
- 受験勉強で得る知識・技能が実務に生かせない。

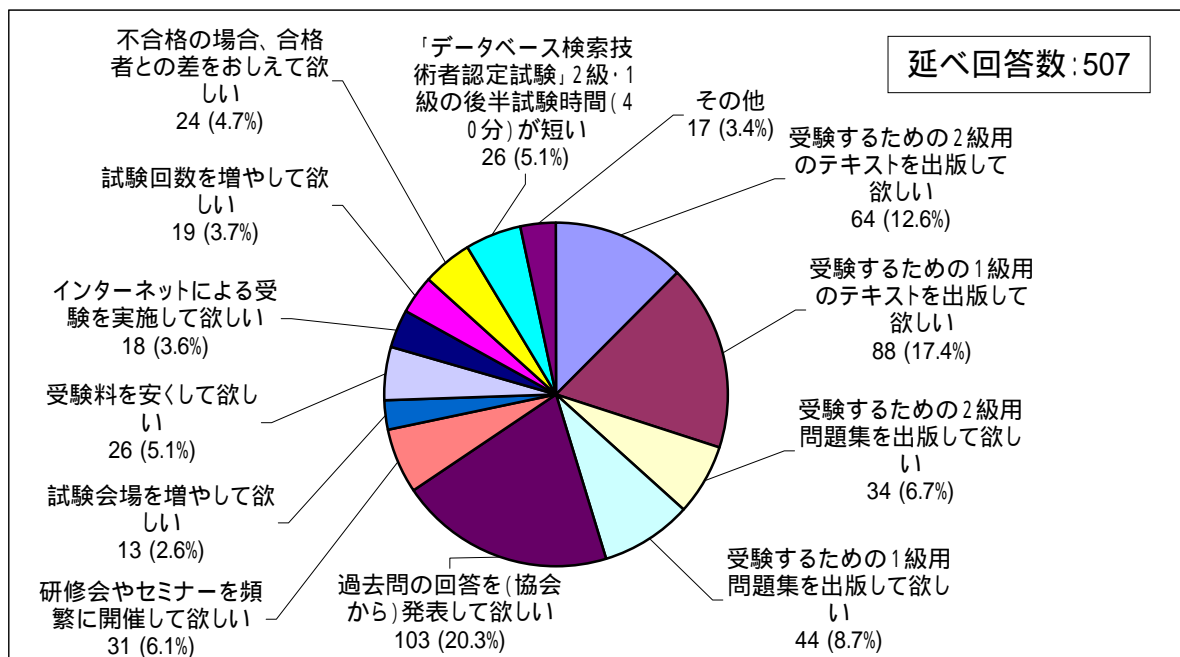
Q 29 . 受験した方にお尋ねします。受験料は誰が払いましたか、該当する番号に 印を一つ選択してください。



<その他>

- 途中までは会社、以降は自己負担(複数回受験)。
- 記憶がない。合格祝いとして会社が負担してくれたと思う。
- 2級は自費。1級も自費で支払ったが、社内の他の人は2級でも会社が出してもらったときいて、あとから申請して出してもらった。つまり、会社が全額負担してくれるが、そのことを知らなかった。合格したので負担してもらえたが、不合格の場合はどうなのかは不明。

Q 30 . 受験した方にお尋ねします。現在の試験制度および試験内容について協会に最も改善して欲しい内容の上位3つを、該当する番号に 印をしてください。

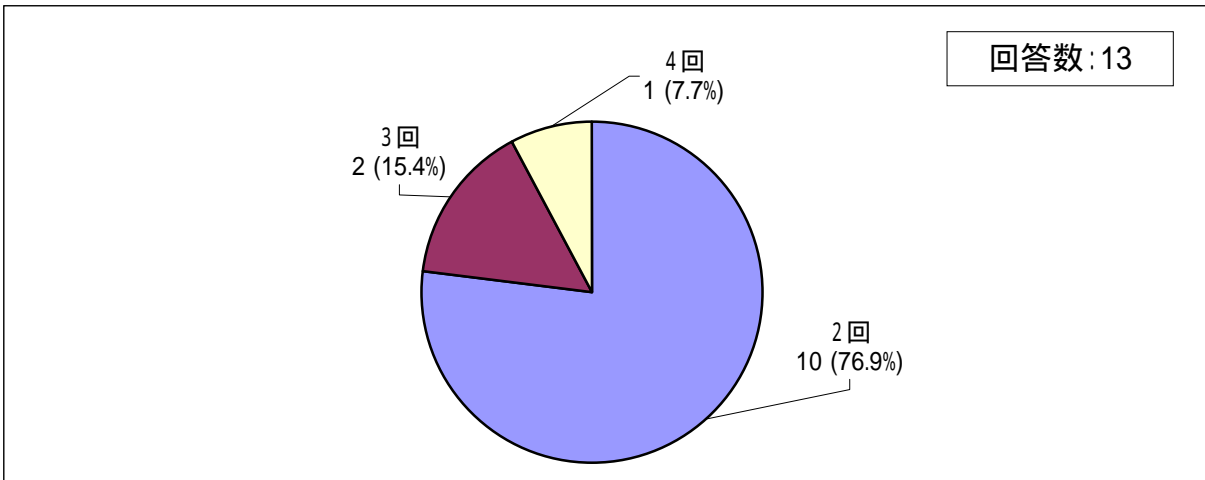


受験会場の希望地：各県、東北、中国・四国、北陸、九州、東京、仙台、岡山、熊本、など。

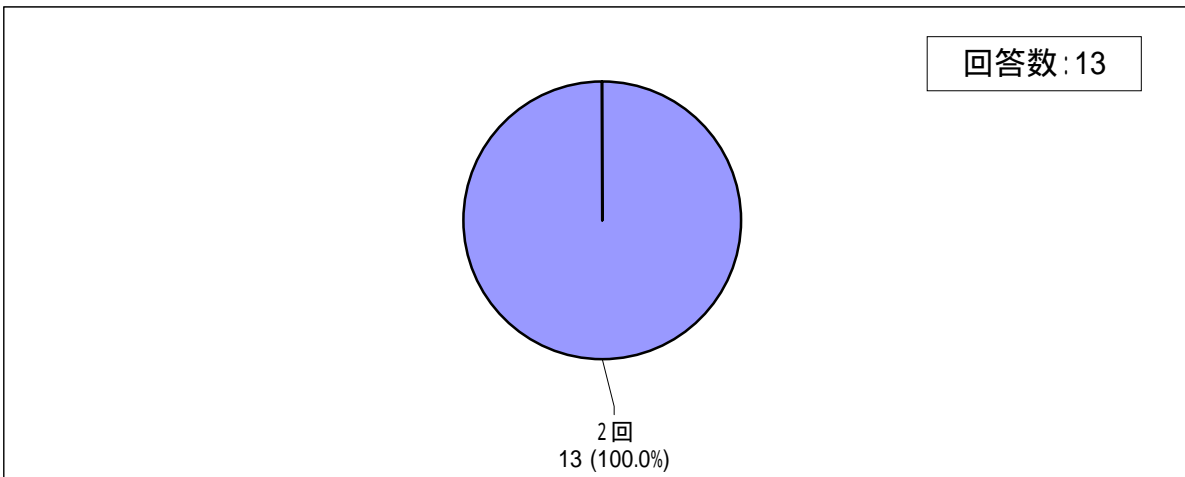
試験実施回数は以下の図と通りである。いずれも2回が最多であった。



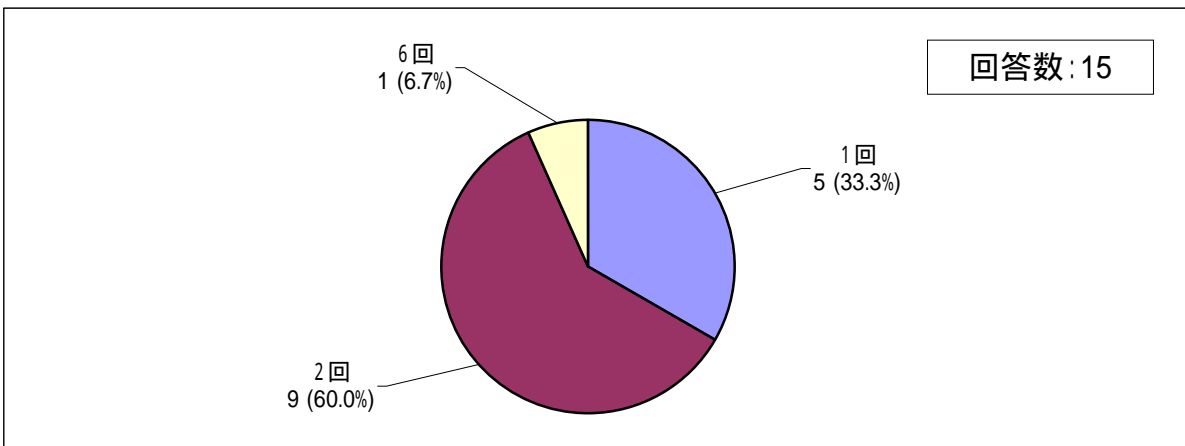
< 基礎 >



< 2 級 >



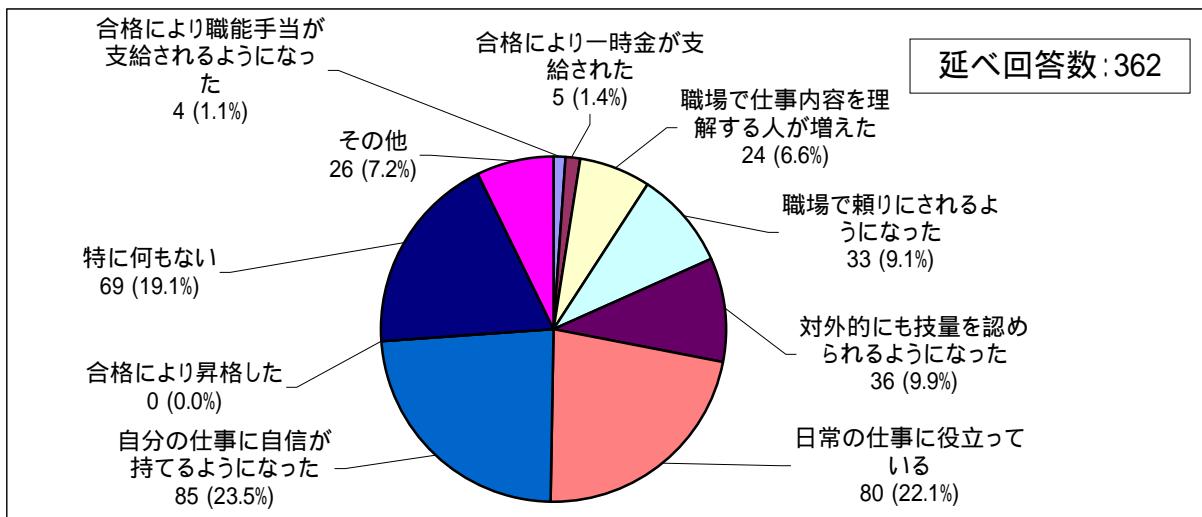
< 1 級 >



<その他>

- 試験の社会的認知度を上げて欲しい。
- 一級は専門性より、マネージャーとしての能力を問うべきである。
- 内容や制度自体の充実。
- 平均点を公開して欲しい。
- 合否の発表を早くして欲しい。
- 問題集やテキストがないので、一般の人は受けにくい。
- 一級については無理であろうが、せめて二級については、教科書あるいは参考書があるべき。“情報検索”に関する知識は、受験者にとっても非常に得ることの難しい情報である。
- 1級受験用セミナーを開催して欲しい。
- 実技があってもいいのではないか。

Q31. 試験に合格した方にお伺いします。合格して良かったと思うことは何ですか。該当する番号に印をしてください。回答は複数選択しても構いません。

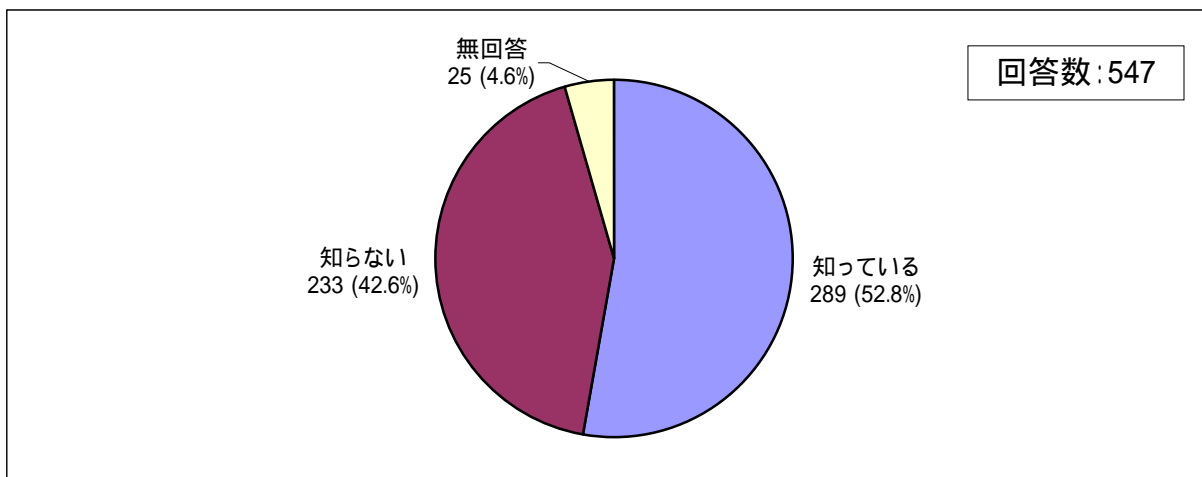


<その他>

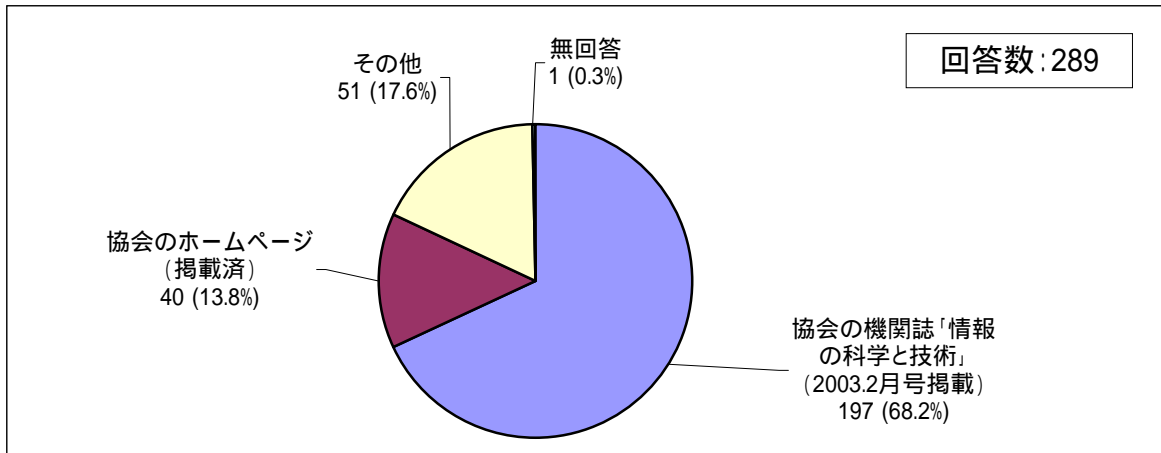
- サーチャーの会に参加し、人脈知識が広がった。
- サーチャーの会に入会し、他の検索技術者との情報交換ができるようになった。
- サーチャーの会に入会できた。
- サーチャーの会への入会により、先輩サーチャー達と交流がもてたこと。地方で、個人でサーチャー業をしているので、同業者と接する機会がないとスキルアップができず焦るので、サーチャーの会に入っていることの安心感は大きい。
- データベース検索技術者による研究会に参加し、知識向上、技術習得に役立った。
- 知人が増えた。
- 再就職のときのセールスポイントになった。
- 履歴書に書ける資格が増えた。

- 何度もチャレンジして、それが認められた、という達成感を味わえた。
- 部下の育成においても具体的に指導できる。
- 勉強するきっかけになった。
- 勉強になった。
- 再就職に有利だった。
- 合格することが採用の条件だった。
- 希望部署に異動できた。
- クライアントとの面談時に話のタネになる。講師の依頼を受けるようになった。
- 対外的な営業PRとして使える 2級 人 1級 人など。
- 自分の知識の確認ができた。
- 合格して、自分に満足した。
- 持っていたことにより試験で有意になった。入社後は特別な評価なし。
- DB 等への理解を深めることができた。
- 社内では全く何もなし。
- この様なアンケートに一応サーチャー 名の数に入れてもらえる。1～4.8については社内で実施されている会社があれば是非知りたい。

Q 3 2 . 認定試験制度についてお尋ねします。2003 年度から新しい試験制度に変更されることを知っていますか。該当する番号に 印を一つ選択してください。



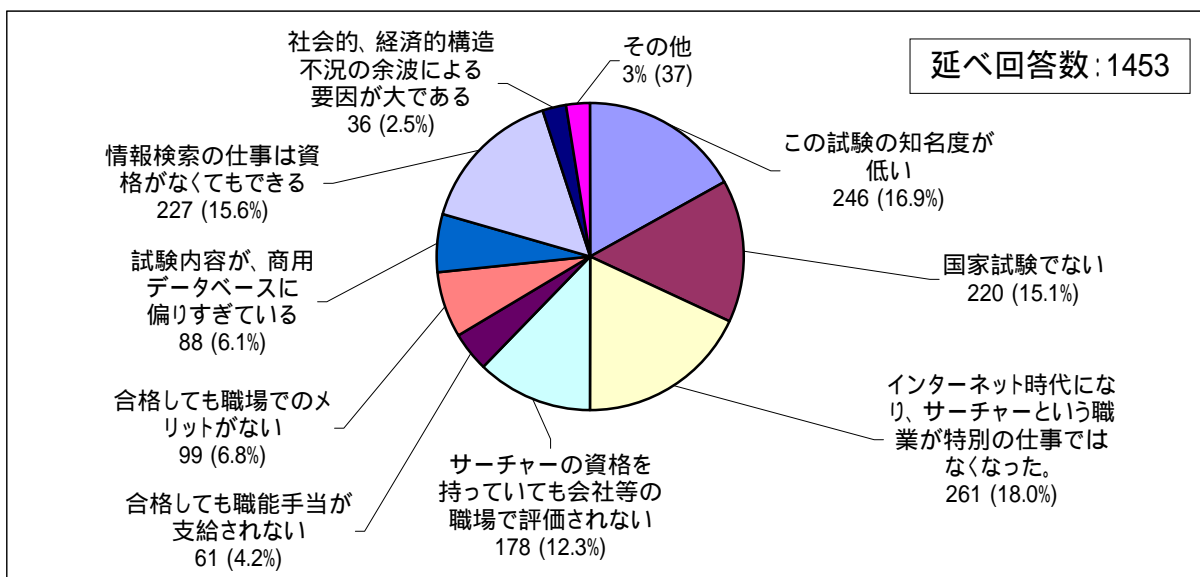
Q33.「知っている」方は、何で知りましたかをお尋ねします。該当する番号に 印を一つ選択してください。



<その他>

- 協会の委員会関係。(9名)
- 知人から聞いた。(8名)
- 理事会・評議委員会。(6名)
- 役員、関係者、協会の活動を通じて。(5名)
- サーチャーの会。
- 東海サーチャーの会。

Q34.「データベース検索技術者認定試験」の受験者数が年々減少している理由として考えられる項目をお尋ねいたします。該当する番号に 印をして下さい。

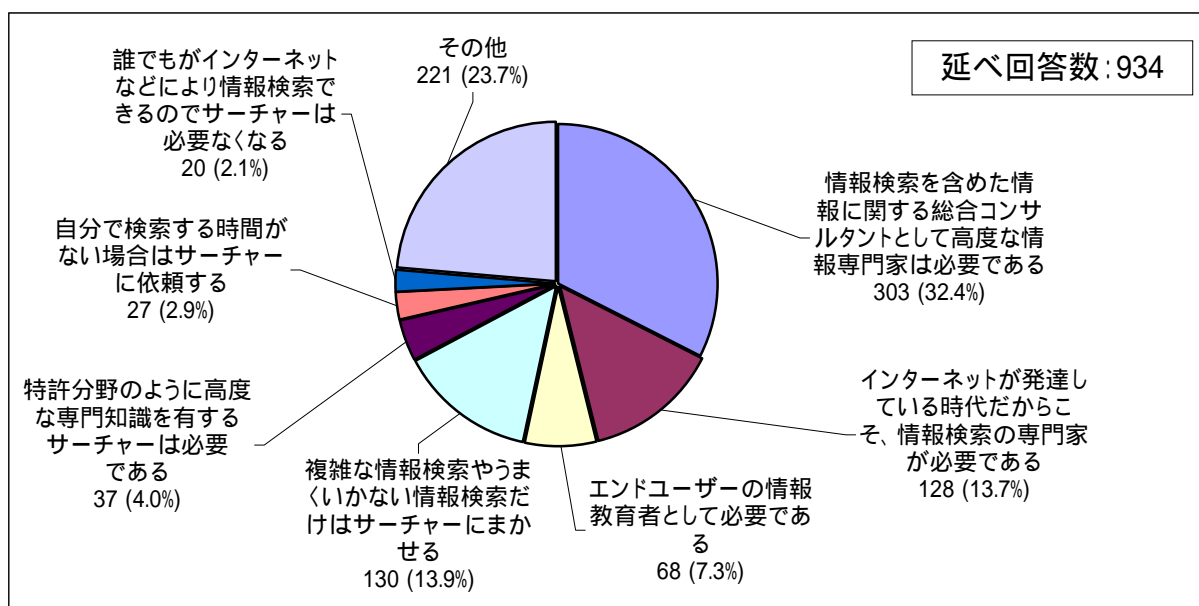


## <その他>

- サーチャーというだけでは世間的魅力が薄れてきた。
- サーチャーと非サーチャーの検索結果の優劣を測りにくい。「ここが違う！」とアピールする機会も基準もない。
- サーチャーという職業そのものが、社会に認知されておらず自主的なPR活動も不足している。プロのスーパーサーチャーを雑誌で紹介するとか...いろいろ努力してみてもいいか。
- 情報検索の仕事が職場で評価されていない、理解されていない。
- 派遣会社等でもこの資格について知らない。ニーズは高いと思うが、社会的認知度は低いし、組織でも評価されない。
- 受験すべき人が、すでにほとんど受験したのではないか。企業では不況下、新人は入ってこない。
- 合格すべき人が合格して、新しい人が少なくなった。
- 試験を受けようという意欲のある人は、受験された。企業の図書館、情報サービス部門への人員は削減で意欲のある人の補充は少ない。
- 社内サーチャーが減少している。受験する必要のある人が少なくなった。
- 企業内サーチャーは長年その業務を継続する傾向にあるため、新しい人が新たにサーチャーをめざす機会が少ないため。
- 学術・技術分野が専門化され、サーチャーの活躍の場がせまくなってきている。
- サーチャーの仕事が一步発展して調査マン。情報収集後の分析能力がもとめられる。それらを考えると、サーチャーよりは調査分析する能力を必要とされているため。
- いまは、過渡期、検索ということがやがて“淘汰”されるその時こそ、サーチャーが見直される。(そうあらねばならない)
- サーチャー人口、サーチャー業務につく人の伸び率やサーチャー人口に占める合格者数を考えると年々減少するのは当然の減少だと思います。
- 各研究者が直接検索するようになる。
- データベース検討技術が「調査技術」であるという認識がうすれてきた。
- データベース自体の普及がされていないからではないか。
- 情報の価値に対する社会全体の認識が低い。
- 資格が仕事などに使えないから。
- 状況の変化によって受験し合格してもメリットがなくなったこと。試験に受かったところで、常に最新の動向を追っていないとついていけない。そういう意味でいくら資格があってもあまり意味をもたないからだと思います。
- 協会のPR不足、社会への働きかけが不足。
- メリットのPRが足りない。
- 試験の知名度よりも協会の認知度を高めることが必要。そのためにはアカデミックな部分も大事だが、もっと外部に対して情報管理部門はかくあるべきだとか、具体的な取り組み課題をアピールすることが求められていると思う。
- 広報不足、教育界との連携不足。
- 価値観が理解されていない。

- 個人的には必要だと思いますが、1～9すべての要因が考えられるのではないかと。
- ドットコムマスター（インターネット検定）だとかシステムアドミニストレーター（いわゆるシスアド）のように、「公式テキスト」や「予想問題集」を作ってPRしないと受験者は増やせないと思う。
- 問題集もテキストも、情報処理系の試験にしては、数が少なく、受験しようとしても一般の人は受けにくいと思います。検索のノウハウがいかに大事か、一般人用のための級をつくったりして広めていかなければ、その大切は伝わらず、受験者も減少すると思います。
- 特許やオンラインDBなど設問が特化している。但し、これは試験の特性でもあるので、修正する必要はないかもしれない。
- JOIS 検索中心の試験という認識が広まったものと考えられる。
- 受験料が高い。
- 旧科技庁の認定がなくなった。
- 情報処理技術者試験への関心が高い。
- 現在、従事している仕事と試験内容がかみあっていない。
- 必要がなかったので注意していなかった。

Q35 . 今後、サーチャー（情報専門家）はどうかと思いますかお伺いいたします。自分の現在の気持ちに近い項目の上位2つを選んで



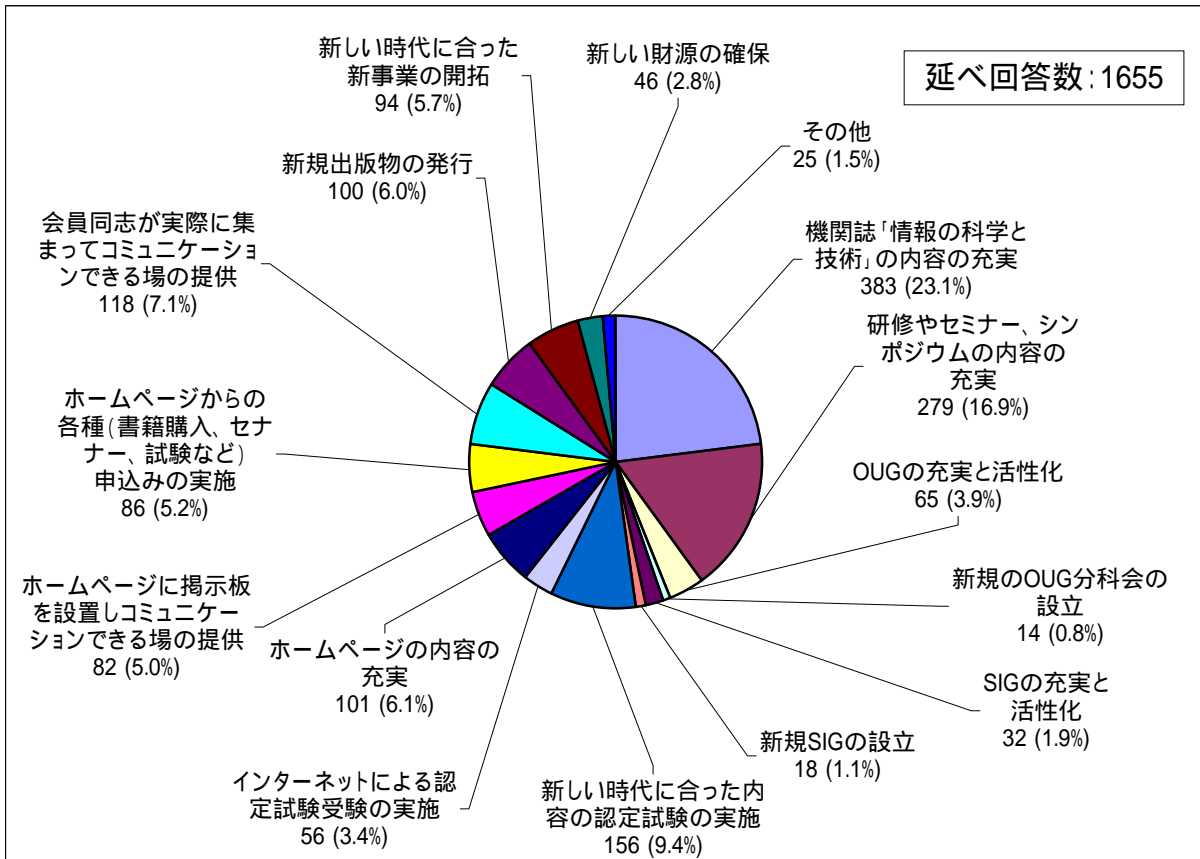
<その他>

- 調査する能力、調査する事項は広範囲、今後ナレッジワーカーは増加すると考える。
- 情報発信、情報管理とあわせた性格にしないと、サーチだけでは専門として立ってゆくことは多くの人にとって(少数のエリートは別)無理と思う。
- BtoBではなくBtoC(或いはCtoC)の形で、つまり個人の情報検索(調べもの)という需要が出てくるのではないだろうか。
- 製薬系でのみ残る。図書館情報等の一コマにとどまる。

- 収集した情報を取りまとめること。加工が重要。
- 総合コンサルタントとして高度な情報専門家あるいは特許分野のような高度な知識を有するサーチャーを存続する企業と、誰でもがインターネットなどで検索できるのでサーチャーは不必要と判断するが、必要な時は派遣サーチャーを雇う企業とに二極分化していくと思う。
- 検索結果に付加価値をつけてこそ有用なサーチャーとなれる可能性がある。検索できたことに満足している人は論外でしょう。自分で検索してその結果を利用する場合を考えてみれば、わかると思いますが、検索結果が必要なのではなく、検索したデータを使って何をするか、が大切だと思います。
- Specialistと高度な情報の専門家の様なConsultantが必要。情報の解析能力も備えている方が良い。
- 検索技術 分析技術重視される。
- 検索代行としてのサーチャーは必要なくなるかもしれないが、総合的な知識を有する情報専門家のみ、必要となると思われる。
- 特定の商用DBに特化したサーチャーは不要になると思うが、広範な領域における情報源に関する情報や情報入手ルート、手法に関する総合的な知識をもつ情報専門家は今後更に必要になると思います。
- 特許情報の専門家の内容と重複するが、情報のエキスパートでなくある部門の情報のエキスパートに特化するのでは。試験も技術士試験のような形態になるのでは。
- 情報の専門家が総合コンサルタントになる逆で総合コンサルタント業は、情報検索能力が必要である。全体の方向性は2分化し、プロ向けで迅速、誰でもできるが時間がかかる方法。
- 現行のままだと「サーチャーは不要」のパターンに、しかし、コンサルタント的要素に業界全体で力を入れていけば「検索コンサルタント」に向かうと考える。
- サーチャーが活躍する場が具体的でない。
- 検索可能化に活路を見出していけば良い。蓄積方法を知る者が最も効率良く検索できると思う。
- サーチャー自身が適用できる分野(ニッチな分野)に乗り込んで開拓する必要がある。
- 主題分野別サーチャーが必要。
- 専門家向に高度に加工された商用データベースの専門家は今後も必要と思います。
- ポータルの作成など、情報の再組織化にその力が作えるのではないか。
- 情報検索ソフトの開発に寄与できる。
- 専門知識に基づいた情報の評価が行え、それが社会的に認められるようになれば良いと思っています。
- 各分野での情報の専門家が必要なことは勿論ですが、これらの人達だけを対象としていたのでは、ますます減少傾向でしょう。多くはインターネットで検索できれば充分と思っている人達です。こういう人達を包含するようにしてください。
- 情報の加工方法を含めれば必要な職種でもあるが、単なる提携検索者であれば必要なくなる。
- サーチャーの存在を一般社会に認知してもらう工夫がなくなると、「サーチャーは必要ない。」という認識が社会一般となり、サーチャーの存在意義が理解されなくなる。
- 総合コンサルタントとしての高度な情報の専門家あるいは特許情報分野のような専門家が必要と思うが、3年程度で人事異動のため人が変わってしまうので専門家が育たない。また、予算上外部の専門家も雇えない。

協会の全体的な活動についてお尋ねします。

Q36. 今後協会に期待することをお伺いします。該当する番号に 印をして下さい。回答は複数選択しても構いません。



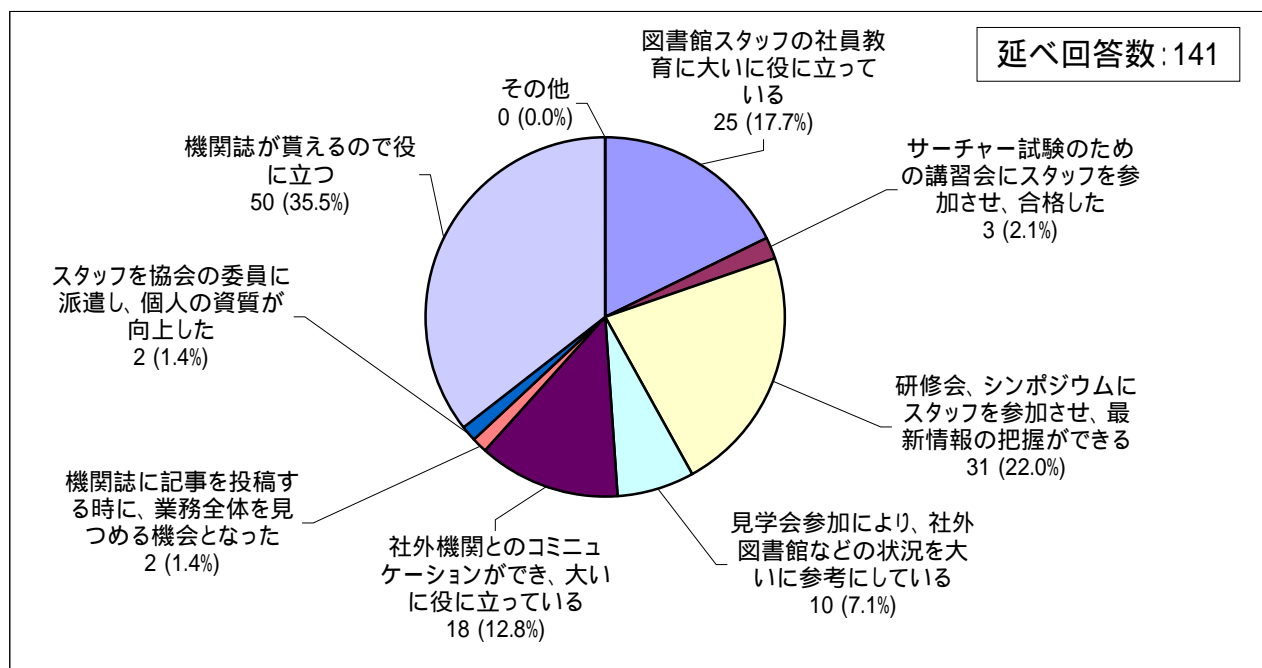
< その他 > 記述で主だったもの

- ・ Group wear を用意して、特に老人力の活用の場を設ける！
- ・ 研修セミナーがどうしても東京中心。同じ内容での地方開催を増やしてほしい。
- ・ 他協会・学会とのジョイント企画。
- ・ 検索に関連する研究会は多数あるので自分に適当と思う研究会などに参加することで充分と思う。
- ・ 他分野との交流・連携。
- ・ 広報活動 マスコミ、外部団体に対して(企業、教育機関など)。
- ・ メールマガジンで情報を発信。
- ・ 新しいことをやるためにも、現在やっていることで重要ではないものをやめる。
- ・ サーチャーの重要性などのアピール(宣伝活動)。
- ・ 協会活動や認定試験の存在とその必要性を何らかの形で社会へPRすること。 当協会の必要性を各企業の経営陣に認識させるように、マスメディア等へ発信しなければ先細りになってしまう。
- ・ 情報史の編集。
- ・ 遠方にいても各種活動に参加できるような方法がほしい。
- ・ 知名度を高めるPR活動。

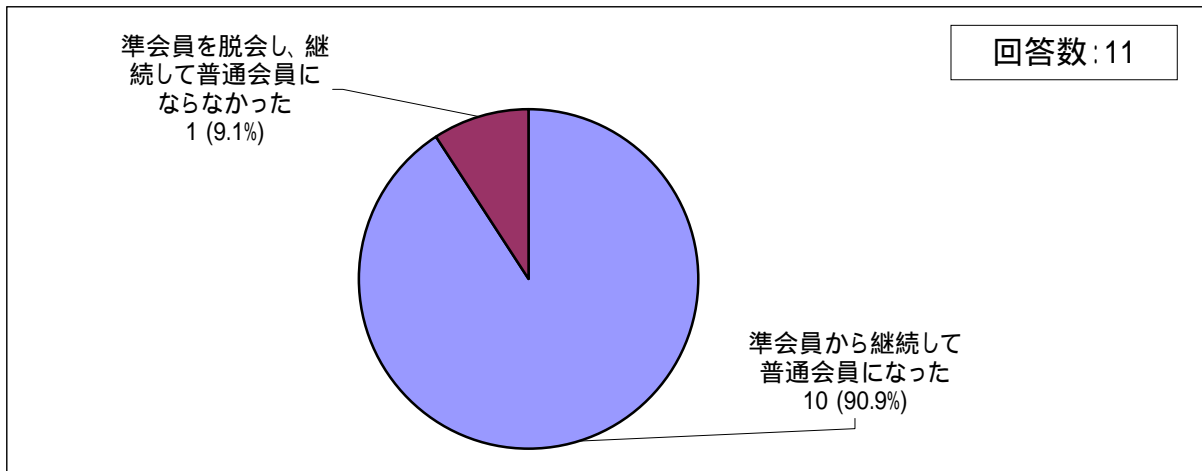


- ・ 資格付与を行う以上、専門職能団体としてその職業(サーチャー)の啓蒙・普及・水準維持etcに責任を持つ必要がある。医者や弁護士の地位が不動なのはそのためである。
- ・ 20才～40才の会員を活動の中心になってもらう。
- ・ O Aリテラシーの率先的、模範利用と活用、少し遅れている。
- ・ 「情報と科学と技術」の電子版をfull textで見られるようにしてほしい。
- ・ 恐らく、この全項目は、すべて必要でしょう。OUGの充実と活性化と新規SIGの設立は、小人数のグループで、もっと広く誰にでも参加できるようにしたらと思います。
- ・ 世代交代の時期にきていると思います(これまで活躍された方が退職の時期にきている)。中核を担うキーパーソンの育成が必要では？
- ・ 中堅、中小企業、会員の増加、方法の検討、各県の中小企業振興会社、大学 TLO の会員増加の方法、毎号事例記事をのせる。

Q37. 維持会員・特別会員の方にお伺いします。該当する番号に 印を3個選んでください。  
(普通会員、準会員は記入不要)



Q38. 今後、準会員をふやし、普通会員に継続していただくために、以前に準会員（学生会員）であった経験をお持ちの方にお伺いいたします。 該当する番号に 印を一つ選択してください。



Q38-1. 準会員から継続して普通会員になった、その動機とメリットは何でしょうか。(記述)

- ・継続をすすめる内容の手紙を読み、将来の自分の知識量の増加につながると思った。
- ・仕事上、この分野の最新情報を収集する必要があるため。
- ・地方在住で新しい情報はなかなか入って来ないので。
- ・研究から実行への移行にあたって、研究面でのバックアップ。
- ・情報というものが、これからの時代を引き継ぐものとなっているから。
- ・継続して普通会員となって学び続けたいと考えました。
- ・会誌やセミナーなどを通して、学習にも実務にも役立つ最新の知識を学ぶことができるというメリットを感じているため。
- ・会社内に情報専門家という人が他にいなくなるため、情報入手手段として。
- ・惰性。特に脱退する理由もなかったのです。何も無い。金額が高くなったのみ。

Q38-2. 準会員を脱会し、継続して普通会員にならなかった理由(動機・メリット)と、その後再入会された動機とメリットは何でしょうか。

- ・脱会の理由: 大学図書館に就職し興味が変わった。再入会の理由: 大学院に社会人入学し、修士論文にもとづいて執筆した論文を当会の会員に読んでいただきたかった。
- ・汨乱する情報の中に隠れている真の意図を見抜く、いわば、情報・メディアリテラシー的素養を確保するため。

Q39. アンケートの設問以外で、何でも結構ですからご自由にご記入ください。

(主だった記述を以下の13項目にまとめた。)

Q39-1 【協会活動へのコメント・要望】

- ・現在は自分の専門から大きく離れた所で勤務していますが協会に所属しているおかげで常に向上心を忘れずにいられます。

- ・サーチャー技能。すなわち情報検索能力の重要性と存在意義を高めるには、図書館や知的財産など、特殊な職場だけでなく、ビジネス界一般で認知される必要があります。たとえば、営業企画などの一般的な職場で頼りにされるような職種であることをアピールして情報の専門職の拠り所となって下さい。
- ・協会名をドキュメンテーションから情報科学に変え、認定試験を導入させたのが、大きな革新でしたが、その後時代の進みの方が、協会の歩みを越えていったということでしょうか。今回認定試験の内容をはじめ、第2次革新を試みられていることに敬服します。こう言う時代だからこそ情報の専門性は、さらに必要だともいえますが、それは小数です。現代はすべての人がサーチャであり、情報検索者であり、従来使われてきたサーチャという言葉は、消えそうになっています。
- ・INFOSTAの活動は、地道で、特定分野に偏ったものである印象がありますが、実際は、現代社会だからこそ貴重なノウハウ/コミュニティのあり方を考える大切な場です。今後は活動範囲を拡げるための宣伝/普及も大に行うべきではないでしょうか。
- ・時代は急速に変わっていきます。古い眼の人は古い眼のまま、人はそれを変えることができない。新しい眼の人にステージをまかせる - これが新時代のサーチャーを育て、大切な情報検索を認識させる道だと思っています。
- ・Q36の項目はすべて実施してほしいものばかりです。私はSIGにINFOSTAの新しい時代に即した理論(情報の管理と利用のような)の確率のための部会を設けたらどうかと考えます。21世紀ビジョンでもうたっていることです。少しずつでも理論的な積上げをして行ったらよいと思っています。INFOSTAの活動の源動力の一つは若い方のボランティア活動です。自分の持ち場でできることをして、それでも満足感がえられるような場(例えば委員会)が見つければ若い方の活動が期待できます。INFOSTAは地味に、地道に成長していく組織と信じています。
- ・これまでの情報検索は特許関係あるいは薬学、化学等自然科学分野のみに軸足が置かれていたように思えます(小職のような門外漢から見て)。社会科学とはいわずビジネス関係あるいは個人生活者としてのさまざまな情報検索ニーズ(調べ物)が存在すると思います。あまり間口を拡げると協会の活動の焦点がぼけてしまうリスクはありますが一考して頂ければと存じます。

### Q39-2【協会の運営に関して】

- ・協会運営の中心となる人材の強化(事務局スタッフの増強など)。役員(理事、評議員)が、事業運営にもっと直接的にかかわるべきと思う。各委員会は連携を強化して事業の企画を行う必要があると思う。
- ・協会運営がきびしい状況となっていることは、想像できますが、現場(公共図に限らないと思いますが)の職員の問題は、もっと難しい面をかかえています。職能集団としての機能を持つ、貴協会の活躍が司書の支えとなります。運営上の問題を公開し、会員すべてで考えるシステムが必要なのではないでしょうか。・サーチャーやライブラリアンの地位がもっと上がるような、そのような運動の起爆剤になるような活動を期待します。
- ・確かに、私が以前の仕事を始めた頃と時代、情報環境は大いに変わり、セミナーにしる、シンポジウムにしる協会は今一つ、スッキリせず壁にあたり、模索している感じがする。しかし、1利用者の立場に立つと、情報洪水の中、とまどい、スッキリと欲しいものが手に入るわけでもない。情報管理や構造の中身を知り、適切に助言してくれるヒトも必要だと思う。こういう目的で会員を継続しているのだが、自身をもって、協会の「こうやってはどうか」と提言するものが今は浮かばない。HPでできるだけ一般のヒトへ広報し、情報入手に関して何らかのヒントを提供できる部分を設けてはどうか。

- ・高度情報化時代において情報検索・サービス・管理を行うに各情報処理システムの方式理論を理解していることは大切。もはや外側からhow to を知っているだけでは対処できず。協会はknow howの交流、さらには、開発know howの交流の場になる必要あると考える。上記のことも踏え、類似団体との合併等を積極的に推進すべきでしょう。
- ・会の運営は、ほとんど会員のボランティアでまかなわれているようにも思われます。ただ勤務先の人員削減等で、なかなかそうした活動に参加できにくい立場におり、心苦しく思うことがあります。なるべく個々の運営にかかわる方の負担が軽くなるよう配慮お願いいたします。
- ・日本全体の傾向であり問題でもあるが高年令化が活動のブレーキになっていないか。活性化には若い人たちのいろいろな形での参画が必要だと思う。とくに学生(学部、院生)と高年令層の関心のすり合わせを行うセミナーなどどうですか。
- ・情報を取り扱う人々がどんどん増えているはずなのに、協会や会報誌にそうした人々を引き込む動きがあまり感じられない。従来の子から、もっと外部を見て、取りこむべき部分はどんどん入れてもらいたい。
- ・当方のように地方在住者は、中央の皆さんと顔を合わせる機会も少なく、Mail・掲示板・会議室などが切望されます。
- ・協会の維持からの発想ではなく、真の情報(分析の)専門家の育成と能力向上の視点から今後の「ビジョン」を作成して頂きたい。  
(サーチャーの育成から、リサーチャーの育成に活動内容を進化していくべきと考えます。)

### Q39-3【協会の事業に関して】

- ・貴団体の活動内容は非常に水準が高く、入会させていただいた者として感謝申し上げますとともに、敬意を表します。拝読させていただいている機関誌につきましても、大規模図書館から零細資料室まで参考になるように組み立てられております。毎回このように企画されてきた実績の背後にある、スタッフの方々のご苦勞をお察し申し上げます。私のような者が申し上げるのは失礼であるかもしれませんが、実績面の水準の高さに対し、各種お値段が少し良心的か(=安すぎる)と感じております。安い会費を設定しますとどうしても人々は安い方へ流れますので、値上げをご検討されてはいかがでしょうか?印刷物を止め、全部webとmailで済ませるという方法もあります。将来の固定経費となるネットワーク管理コストを十分に検証する必要がありますが、莫大な印刷物発送コストを軽減することも可能です。  
著作権、複写権問題などは、大学における教科書的な議論と、役所内部における議論と、実際のトラブル回避、解決は別という側面があります。政府の委員会における議論の様子や、具体的な事例、その種のニュースを、簡単なニューズレターに加工し、会費とは別の有料サービスとして、月に1 - 2度メールで発行していただけますと、私個人的にはうれしいです。
- ・サーチャーが検索(オペレーティング)だけでは生きていけない時代だと思います。コンサルティング、情報活用、社内ポータル構築による情報発信など、協会の活動にもこのような分野への参入が必要な気がします(コンサルティング事業など?)

・大学および高校の情報教育の先生方を対照に企画することを考えたら如何。

#### Q39-4【インターネット時代】

・私は公共図書館にありますが、インターネット時代を迎え、データベースの活用(新聞記事、科学、技術、経済社会等)の検討がようやく進みつつあるとともに、電子情報活用のための著作権や契約、支払方法の検討もこれから少しずつ増えるでしょう。財政環境が厳しいため、公共図書館、学校図書館、大学図書館、専門図書館といった異なった館種の協力が地域ネットワーク形成として徐々に進んでいきます。英国では、図書館(L.A.)と情報専門家協会(ITS)が統合協議を進め協力関係の強化、大学の図書館情報学のプログラムの評価、認定の共同実施、専門職の継続教育プログラムの実施を行っている。日本においても、情報科学技術協会の知識経験、技術を活かし図書館協会と連携協力する方向で検討してほしい。

・近年、インターネットの利用者が増え、Web検索によって、情報検索が誰にでも気軽に出来ることになったためか、“データベースへの理解”や“調査・検索技術”は低下したのではないかと考えています。情報の洪水の中で本質を見誤ったり、ほしい情報に到達できなかつたり、情報を少し得ただけですべてを得たように思いこんだりとユーザーの裾野が広がるほど、問題が生じてくると思います。そんな中でINFOSTAには、情報の取扱いに対する啓蒙活動やスキルアップの推進力となる役割を期待しています。

・情報検索はコンピュータがパソコンになったと同様に専門家の技術から既に一般の人の道具となっている。それに伴って情報価値も変わらざるを得ない。又ソースのデジタル化、標準フォーマット化が進むと、あらゆる情報をロックされていない限り、インターネット検索エンジンの力で誰でもアクセス出来る様になる。しかし人間の仕組み作りに対する抵抗が無意識の内に、その様な動きを阻止している。セキュリティに対する不安が根底にあると考えられる。

・インターネット普及とともに情報収集機会が豊かになったように感じられるが、系統的に収集されている図書館情報の方が信頼できるし、目標とする情報へのアクセスも論理的にできる。図書館情報の検索、処理、加工を電子的にできることが望まれている。従来の図書閲覧だけではなく、パソコンを用いた自在の処理システムが図書館に必要である。インターネットではできない「対話、発表、交流」の活動を充実すべき。そして、その活動が新たな創造をより豊かにすることに結びつく。協会の役割は重要です。

#### Q39-5【サーチャー及び情報のプロに関して】

・ちょっとした検索はインターネット(ホームページ)の出没で不要になりつつありますが、それだけにサーチャーにはより高度な知識や技能の修得が重要になってきていると思います。

・会員(=サーチャー)のみを対象とした活動のみならず、広く社会に情報というものを普及するための活動を目指してほしい。日本は世界と比べて情報のとらえ方、あつかい方が遅れているように感じる。欧米やアジア諸国に負けない情報戦略が確立されるような活動も期待します。サーチャーの技術を、雑誌なども含め、もっと外にアピールする活動をして欲しい。

・インターネットが普及した現代ではありますが、情報が多く得られればそれだけ選択するスキルが求め

られると思います。その意味では今度、サーチャーの果たす役割はより重要でむずかしくなっていくと考えます。貴協会はそのようなサーチャーの将来についてのビジョンを提示できる立場にあると思います。大いに期待したいところです。

- ・誰でも簡単に検索技術も必要なく、情報が入手できる時代です。サーチャーの必要性はあるのか・・・と思うこの頃です。シスアドのような資格がこれからは必要と痛感しています。必死になってサーチャー受験勉強してもあまり役に立たないようにも思います。
- ・情報は多くの人々に知られたいと価値がない。専門家としての技術向上を計ると同時に、一般の多くの人々に利用価値を普及させることも必要である。社会から離れて専門家集団となるだけでは、自己満足に過ぎなくなる。
- ・いつも最先端の情報を載せてくれる機関紙を楽しみにしています。ただ、「サーチャー」という言葉自体が古くなってきたかと思います。イメージとして消極的、限定的すぎる感じが。もっと能動的な要素を付加する必要があるんだろうと思います。organizer, promoter, editor, (educator), (explorer)勝手ですが。外来語はすぐ古くなるので逆に「情報技術資格」のように日本語の方が良いかも。
- ・サーチャー不要論は深刻。情報部門のユーザがインターネットを使用しそれで満足し、世の中にはもうこれ以上情報はないと信じていて、情報部門へ情報の検索依頼にはこない。エンドユーザにいかにしてまだ情報を引き出せる、というのをどう知らせるかが課題であると思う。デジタル化の時代、図書にしてもオリジナルは電子化されているはずである。全文検索による情報の提供を願うものである。

#### Q39 -6【会誌関連】

- ・誌面から作業する人々の一生懸命さが伝わってきて、毎回おもしろく読んでます。日進月歩の世界ですが、だからこそ、自分で集めきれない情報の補足をして新しい情報、より深い考案の論文を期待します。これからも役に立つもの、皆で討論できるものを提供してください。
- ・質の高いものを会誌にのせることこそ、会員を増やす方法だと思えます。変な妥協は会のレベル自体を下げ質量の低下を招くと思えます。海外誌に接する機会が少なくなった。文献紹介ではなく、海外の動向について論評の内容で紹介してほしい。
- ・論文誌がB5判で活字が読みづらいので改善を。投稿論文については、印刷物としては、概要(最大1ページ程度)のみにして、必要論文は、ホームページ提供でよいのではないかと思います。
- ・会誌の構成が古くさい。もう少し、カラフルにしないと文章(文字)のみの羅列という印象が強い。・情報源の充実(インターネット時代だから難しいかも知れないが)。会員制(低額)で有用な情報源はあまり知られていないような気がする。
- ・日本以外の先進国でのサーチャー、インフォプロの実態の紹介(試験含む)と日本との対比 - 調査報告 - 。マスコミへの宣伝活動。
- ・電子ジャーナルに関する国内外のホットな情報を特集等で組む以外にもどんどん提供してほしい。インターネットによる様々なサービス提供も各図書館で工夫をこらしているがその紹介もあるとよい。
- ・情報分野における最新ニュースを簡明に紹介するページが、「情報の科学と技術」の中にあると、最新

のトピックスを知る上で好都合に思われます。日本化学会の機関誌「科学と工業」では、毎月「NEWSから」として、多くの最新ニュースを紹介しております。

- ・「情報の科学と技術」はどちらかというと旧職員に対する教育的色彩が強いイメージがある。またサーチャーの今日的役割も変化し、過渡期を迎えているとするなら、過去の貯積を生かした上で、時代に則した、特集、編集が必要なのではないかと思う。一方で、自己啓発の潜在的ニーズは高まってきているのは、事実であり、そういったいみにおいては逆にチャンスでもあると考える。
- ・首都圏の公共図書館員から転職し、現在は地方の小さな町の図書館員になっていますが、先進的、専門的な情報・知識を得る上で、会誌の購読はますます重要となっています。会員としては会費を払うしかお役に立てませんが、今後とも会が発展することを期待します。

#### Q39-7【認定試験関連】

- ・認定試験合格者が社会的、社内的地位を得られるようにしたい。そして、合格者が積極的に研究会をしたり、セミナーをしたり、出版に寄与したりすることにより、社会的地位を得ることが重要。協会はこのフォローし協力してほしい。具体的には、1級または2級合格者には原則会員になってもらい、何らかの委員会に参加して勉強することを原則とする。
- ・関西の市大での情報のカリキュラムが開始されたが、こういうものにタイアップして、協会の特典になるようにするとか。こういうプログラムの講師を出したり、逆にこれを利用するとかができるようになると良い。司書課程のある大学等での地方試験(受験料の学割あり)。テンプスタッフなどの人材派遣会社への売込み。サーチャー試験だけでは弱いので、司書資格をとれるコース+サーチャー試験セットコースetc。
- ・先日特許庁審査官にきいたのですが、弁理士のように、知的財産情報の専門家を認定する国家試験、資格を作りたいという議論は一部にあるそうです。情報学系の専門職、大学院で博士を取る人も増加すると思います。協会で奨学金制度を作ってはどうか？
- ・学生の就職試験のための履歴事項として認定を記載させたいので、11~12月以前に2回程度基礎能力試験の受験チャンスを設定してほしい。

#### Q39-8【セミナー・シンポジウム関連】

- ・興味もてる研修やセミナーは多いのですが、東京で開催されるため参加できません。関西でも同じセミナー・研修会を開催して欲しいと思います。実現が難しい場合は、開催後HP等で詳細(\*1)を解説していただけると嬉しいです。現参加費の何%かの有料サイトとして、入金者にパスワードを知らせる等、有料情報でも良いと思います。\*1. 詳細とは、パワーポイントの掲示程度ではなく、音声録音の併用等です。テープ等のメディアの貸出でも良いのではないのでしょうか。
- ・セミナーなどに参加して自己啓発をしたいのですが、平日に出張扱いで、というのは無理なようです。できれば日曜に開催して欲しいです。もしくは、土曜の遅い時間(17時くらい)など。

- ・公共図書館や専門図書館のIT化技術を認定する講習などがほしいし、この協会で行えるのでは？
- ・実務に直結した技術取得できる講座をもってほしいと思う。1回2時間程度のセミナーではたかだか知れている。6回～12回の連続講座とし、概論から、専門的技能を得られるものを。HPであれば、Webサイトの構築から、組織づくり、DBの管理等企画から作成、技術、採算性(経営的視点)、維持管理、セキュリティなど。この講義をうけ、設定されれば一定の技能・知識レベルを有していると堂々と言えるようなものを期待したい。「検索技術」「著作権処理実務」「業務統計分析技術」「デジタル化技術」などをテーマにしたものを期待しています。
- ・会誌の特集を基本テキストとして使用し、その上で実習や応用例の解説など、文章だけでは理解しにくい部分について、セミナーを行うという組み合わせがあれば、より理解を深めることができるのではないかと考えます。
- ・OUGにしても、首都圏の方々しか参加できない事が多いのが残念です。セミナーにしても、もちろん、その場につどい、コミュニケーションをとる事が大切なのですが、どうしても、その場に参加できない…けれど、どんな事をやったのか知りたいという人向けの「バーチャル参加」のようなコースがあるとよいなあと思います。(もちろん有料で…)(議事録を登録会員に見せるとか…。)

### Q3-9【OUG/SIG 関連】

- ・OUG、SIGの活動の成果が、まとまった段階で、内容をシンポジウム、研究発表などの場で発表する事を、今後も大いに推進して下さい。
- ・協会の会費とは別個にOUG会費を徴収する以上は、OUG会員に関する別個の決算を公表する義務があると思います。
- ・OUGに興味はあるが、参加しづらい様なイメージがあります。もう少しオープンな形で開催出来ないでしょうか。関西で活動しているOUG、SIGがない？

### Q39-10【出版関連】

- ・学生にネット検索を主にした科目を担当しております。"データベース"としてネット上の情報(とその整理・分類)をとらえるとき、基礎知識に当たる内容をふまえておくと、様々な検索に対する"方針"がうまく立てられるのではないかと考え貴協会発行物をテキストとして利用していますが、もう少し一般よりのものがあるとよいと考えます。
- ・データベースの内部構成等についての話題ではなく、特定の商用データベースについての最新出版についての話題、使用方法、などの紹介がある情報誌が機関誌とは別にあれば、会員にとってもっと役立つものとなるのではないかと思います。(目録の様なもの。)

### Q39-11【事務局関連】

- ・限られた人数で、協会の事務局としての様々な業務を処理されている事に感謝しています。今後事務の効率化のための機械化が遅れている部分を改善していただきたいと思います。会員への連絡をe-mail化や会員からの意見聴取の電子化など。
- ・現在、協会活動に参加していますが、実態は犠牲を含んだボランティアになっています。協会活動に



会員が積極的に参加する仕組、会員への広報活動(事務的な項目別等でなく写真入りで活動の状況をよりリアルに伝えるもの)等が必要と考えます。例えば『協会だより』のようなパンフが定期的に発行されると効果的でしょう。

#### Q39-12【アンケート調査について】

- ・個人情報の流出が無いようお願いします。
- ・アンケートが全体として企業の維持会員向けのような感じがあります。個人として回答しにくい設問がいくつかありました。データベースのサービスも Web 技術とますます密接になっていますので、Semantic Web、WebService などの視点からの企画がさらに求められます。
- ・今回のアンケートは、貴協会の充実を願って回答しました。この業界は比較的狭く、協会運営者に知人やお世話になった方などいるため、氏名、住所等を記入するのは、何とか気がひけてしまいました。無記名の方が、より自由な意見が期待できるのではないのでしょうか...？。
- ・昨年は忙しすぎて、機関誌も満足に目を通すことができませんでした。サーチャーの仕事や役割の位置づけが、むずかしい時期になっていますので、アンケートで全員の状況等を把握することは、意義があると思います。
- ・e-mailでアナウンスして、webでアンケートに答えてもらった方が安上がりなのでは...と思います。

#### Q39 - 13【その他】

- ・普通会员の場合、機関誌送付先を自宅でなく勤務先にして欲しいと希望したところ、回し読みの可能性を理由に拒絶された。私は教育職であり、そうした可能性をもたらず環境にないのだが、是非とも状況に応じた対応をしていただくことを期待したい。
- ・UDC について見直される時が来ることを期待し、会誌に UDC の動向を知らせる欄を設置して、世界の動向、日本の動向、大小にかかわらず掲載し、現状を把握できるようにするとともに、UDC の火種を消さない努力を続ける必要はないか。地味な仕事ではあるが。
- ・情報(検索)関係の内外の図書収集・展示を希望します。
- ・サーチャーの会分科会のため協会の部屋を開放して頂きたい。

---

平成16年3月31日 アンケート実施委員会